

【ES】教職論		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	矢田貝 真一						
資格・制限等	幼児・保資必修						
実務家教員	中学校教諭・20年						
授業内容	主に未発達な子供を保育・教育することで、その生涯に大きな影響を与える重要な仕事である教育職(保育職)について、現場のしくみや具体的な事象、保護者や地域等との連携の実態などを様々な面から学び、その専門性や役割について考えることで、その職務内容に関する理解を深めていきます。						
授業方法	講義を中心としますが、グループ活動や発表も取り入れながら進める予定です。知識を身につけるだけでなく、教育や保育に携わる職への自分なりのとらえ方や考え方を形成していくことをめざしていきます。						
到達目標	知識・理解	教育・保育職に必要な教職の意義・教員の役割・資質能力・職務内容等に関する基本的な知識、地域との連携及び安全への対応に関する基礎的知識を身につけて、教育・保育職のあり方を理解することができる。					
	思考・判断・表現	教育・保育職の適性について考え、指導や支援にあたって求められる基本的な思考や判断の内容がわかり、それらを適切に表現することができる。					
	技能	教育・保育職に必要な基礎的な技能を理解して身につけることができる。					
	関心・意欲・態度	教育・保育職のあり方に興味や関心を持って学ぶ意欲を高め、この科目で学ぶ内容を積極的に身につけようと努力ながら学修に取り組むことができる。					
	備考	・○・ の記号は幼児教育学科のDP及び到達目標との結びつきの強さを示す。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		45	15	-	-	60
	発表・レポート		5	5	5	5	20
	自己評価		5	-	-	5	10
	受講態度		5	-	-	5	10
	合計(点)		60	20	5	15	100
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修取組・発表・提出等の状況とします。						
テキスト	『保育者・小学校教諭・特別支援学校教諭のための教職論』戸江茂博(監修) 北大路書房(2,300円) ISBN:978-4762828829						
参考書・教材	『幼稚園教育要領』、『特別支援学校幼稚部教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年。『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。『小学校学習指導要領』他 文部科学省、平成29年。他に必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス (この授業の目標と学ぶ内容、どのように学ぶのか、学ぶ心構えなどを理解し、教職について考える) [課題(復習・予習)]テキスト第1章と第2章を参考に、幼稚園教員や保育士に必要な資質や能力を調べてまとめる(3~5h)						
2	教職の意義と教員の資質 (授業外の課題で調べてきたことも活用しながら、教職の変遷と社会的意義、教員の存在意義と特徴・求められる資質能力を理解する) [課題(復習・予習)]テキスト第3章を参考に復習する・教師を他の職業と比較しながら特徴を調べてまとめる(3h)						
3	教師の特性と社会的課題 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、職業の中での教員の特徴について考え、教員の役割と教育的諸課題、公教育とそのあり方を理解する) [課題(予習)]テキスト第13章を参考に、教員・保育者の職務や役割を調べてまとめる(3~5h)						
4	教員・保育者の種類と職階 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、学校・園における教員・保育者の職の種類と教員の職階について理解する) [課題(復習・予習)]テキスト第4章を参考に復習する・提示された教育課題について調べてまとめる(3~5h)						
5	教員の職務内容 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、職務内容と校務・園務分掌についての知識を深め、学校安全への対応と事故対応・危機管理、職員会議について理解する) [課題(復習・発展)]テキスト第4章を参考に復習する・提示された教育課題について調べてまとめる(3~5h)						
6	子供の理解と指導・支援 (教師の基本となる子供理解の方法と要点・支援のあり方、教育相談の意味と方法について理解し、具体的な事例について考える) [課題(復習・発展)]テキスト第8章を参考に復習する・保護者との連携のあり方について実習での体験もふまえながらまとめる・これまでの学修を復習する(4~5h)						
7	教員・保育者の研修とサービス (幼児教育の教員や保育士に必要な資質と能力を再確認し、研修の意義と実際、サービスの意味と職務における義務・制限と身分保障について理解する) [課題(復習)]テキスト第13章を参考に復習する・理解が不十分だったこれまでの学修内容について復習する(3~5h)						
8	中間のまとめ (授業外にまとめた課題なども活用しながら、第1回~第7回の内容を再確認してまとめることで理解を深める) [課題(予習)]テキスト第11章と第14章を参考に、学校種で異なる教員の特性等を調べてまとめる(3~5h)						
9	幼稚園教員・保育士の特性とあり方 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、幼稚園教育・保育所保育の基本と幼稚園教員・保育士の特性とあり方について理解を深め、小中高校の教員との共通点とちがいを考える) [課題(復習・予習)]テキスト第11章と第14章を参考に復習する・就職支援課等にある資料やインターネットを活用して、保育者の給与等の労働条件について調べてまとめる(3~5h)						
10	保育者の給与と休暇 (授業外の課題で調べてきた課題の内容も活用しながら、給与と休暇の基本的な考え方、幼稚園教員・保育士の給与と休暇について理解する) [課題(予習)]『小学校学習指導要領』を参考に、小学校の生活科について目標等を調べてまとめる(3~5h)						
11	幼稚園・保育所等と小学校との連携と教員・保育者 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、幼稚園教育・保育所保育と小学校教育のちがいを、小学校との連携の必要性と方法、小学校生活科の教科目と実際などについて理解する) [課題(復習・復習)]テキスト第12章を参考に復習する・テキスト第2章と『特別支援学校幼稚部教育要領』を参考にしながら、身近にある特別支援学校について調べてまとめる(3~5h)						
12	特別支援教育のあり方と教員・保育者 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、特別支援教育と特別支援教育における幼稚園・保育所・認定こども園と保育者の役割、特別支援学校との連携などについて理解を深める) [[課題(復習・予習)]テキスト第12章を参考に復習する・地域と学校・園との連携のあり方について、具体的な事例を調べてまとめる(3~5h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	チームとしての学校・園と地域との連携（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、園の役割の拡大と連携・分担の必要性、地域との連携・協働の重要性などについて理解する）【課題(復習・予習)]テキスト第9章を参考に復習する・テキスト第10章他を参考にしながら、教職に関する課題について調べてまとめる(3～5h)
14	教職をめぐる課題（授業外の課題で調べてきた課題を出し合いながら、さまざまな課題の内容、そのとらえ方と考え方などについて理解を深め、発表に向けてグループで考えをまとめる）【課題(復習・準備)]調べてまとめた内容についてテキストを参考に見直し、発表できるようにグループでも準備する(3～5h)
15	まとめと発表（これまでの授業で学んだことを参考にしながら、教職をめぐる課題について一人一人がしっかりとまとめ、グループでわかりやすく発表する）【課題(復習)]テキストと配付資料を参考に全体的な復習をする(5～8h)
時間外での学修	【課題】は、授業の到達目標達成に必要となりますので、()の標準学修時間をめどに、確実に学修を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：62時間】
受講学生へのメッセージ	これまでの経験や実習の成果を積極的にいかしながら、学びの中で自分なりの意見や疑問を持ちましょう。オフィスアワーはA305(A号館3F)で毎週木曜日の16：00から17：00です。質問等があれば、どうぞ。

【EB】子ども家庭支援論		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	今村 民子						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	笠松町ことばの教室職員5年						
授業内容	子育て家庭支援の意義や目的を理解し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の必要性や支援の方法について理解します。また子育て家庭に対する現在ある支援の体制について学び、子育て家庭に求められているものは何かを検討していきます。						
授業方法	講義が中心になります。グループワークを取り入れた支援方法の演習もあります。						
到達目標	知識・理解	子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。					
	思考・判断・表現	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。					
	技能	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開方法について学ぶ。					
	関心・意欲・態度	子育て家庭に対する支援体制について理解を深め、子ども家庭支援の現況と課題について検討する。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	期末筆記試験		40	-	-	-	40
	レポート		-	30	-	-	30
	課題への取り組み姿勢		-	-	20	-	20
	授業参加態度		-	-	-	10	10
合計(点)		40	30	20	10	100	
評価の特記事項							
テキスト	『実践 子ども家庭支援論』松本園子/永田陽子/福川須美/森和子 ななみ書房ISBN:978-4-903355-78-8						
参考書・教材	「保育所保育指針」フレーベル館 「幼稚園教育要領」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館 その他授業中に紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性：子どもの育ちに対する家族・家庭の役割を理解する。家族図の作成を学ぶ。【課題（復習）】家族図を理解して作成する。（4h）						
2	子育て家族・家庭の動向：家族の変化、仕事、居住について、少子化について現状を理解する。課題についてレポートで確認する。【課題（復習）】対第1章2を読んで内容を深める。（4h）						
3	現代の子育ての困難さ：地域の喪失、子どもの減少など困難な事項について学び、これからの子ども家庭支援を考える。【課題（復習）】対第1章3の内容を読み深める。（4h）						
4	子ども家庭支援の目的、対象と内容：子育て家庭の危機対応能力のレベルと支援内容について理解する。【課題（復習）】対第2章1,2の内容を読み深める。（4h）						
5	保育士に求められる基本的態度1：相談支援の方向性や相手の気持ちを理解する基本的態度をグループワークで学ぶ。【課題（復習）】対第2章3の内容を読み深める。（4h）						
6	保育士に求められる基本的態度2：受容や共感的理解についてロールプレイを行って理解する。【課題（復習）】内容を記録して事後の反省をレポートにする。（4h）						
7	保育士に求められる基本的態度3：相談・支援への心配りについて理解し、KJ法で必要な項目を見つける。【課題（復習）】支援姿勢について自分なりの考えをまとめる。（4h）						
8	保育士に求められる基本的態度4：育てにくさや障害のある子どもを持つ家庭への支援方法を理解する。【課題（復習）】保護者に寄り添うとはについてレポートにする。（4h）						
9	育児モデルとなる伝承の育児法：伝承されている育児の知恵について理解し育児の中で活かす遊びを学ぶ。【課題（復習）】対第2章4の内容を読み深める。（4h）						
10	保育所利用家庭への支援：在園児家庭との関係作りについて必要な支援方法を理解する。【課題（復習）】対第3章1,2の内容を読み深める。（4h）						
11	地域の子育て家庭への支援：子育てひろばでの支援やスタッフの役割について理解する。【課題（予習）】子育てサロンで学んだことをまとめておく。（4h）						
12	父親の子育てへの支援：父親への子育て支援の視点を学び、支援の実際を理解する。【課題（復習）】対第3章4の内容を読み深める。（4h）						
13	要保護児童家庭への支援：要保護児童家庭の危機対応能力の位置づけを学び、支援方法を理解する。【課題（復習）】対第3章5の内容を読み深める。（4h）						
14	子育て家庭に対する支援の体制：子育て家庭支援の制度の内容を理解する。【課題（復習）】対第4章の内容を読み深める。（4h）						
15	世界の子育て：先進的な子育て支援を行っている国の特徴を学び支援の方法を理解する。【課題（復習）】対第5章の内容を読み深める。（4h）						
時間外での学修	子育て家庭の姿について関心を持ちましょう。テレビや新聞などの情報から課題を持ち考えたり調べたりすると力がつきます。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	子育てする家庭や家族に心を寄せることができるよう学んでいきます。子育てを支える連携機関や地域子育て支援など広い視野を持つことを期待します。オフィスアワー：H204 研究室毎週金曜16：20～17：00						

【ES】社会的養護		幼児教育学科		2年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	松村 齋					
資格・制限等	保資必修					
実務家教員	学校教員20年					
授業内容	少子高齢、景気の低迷、社会不安など、子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。それは、一般家庭における児童虐待の報告件数にも現れ深刻さを増し、また、児童養護施設に入所あるいは里親委託された社会的養護児童の中にも虐待児の占める割合が増加しています。授業では、子どもの権利や児童虐待について考え、社会的養護の制度や内容を理解し、根拠に基づいたケースの理解と援助の方法を学びます。					
授業方法	講義と演習 授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。					
到達目標	知識・理解	児童の社会的養護についての深い知識を持ち、現状と課題を理解して説明ができる。				
	思考・判断・表現	保育者として様々な価値観に対応できる柔軟さを身につけることができる。				
	技能	保育者として児童に対して有効な手だてを講ずるためのアセスメント力を高める。				
	関心・意欲・態度	社会的養護児童のアセスメントを通じて、様々な考えや意見をまとめることができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	10	20	-	60
	発表・レポート	-	5	10	5	20
	自己評価	5	-	5	-	10
	提出物	-	-	-	10	10
合計(点)	35	15	35	15	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。					
テキスト	授業時にプリント配付します。					
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 小池由佳・山縣文治『社会的養護』ミネルヴァ書房 増沢高『社会的養護児童のアセスメント』明石書店 その他 授業時に適宜紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション：進め方、評価方法などの説明 授業の概要を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					
2	社会的養護の概要：社会的養護の必要性 専門性を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					
3	児童養護問題および政策の特徴：多様化する児童養護施設の取り組みから学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					
4	現代社会に暮らす子どもと家庭：日本における子どもと家族の置かれた現状から学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					
5	子どもの権利について：人権としての権利 子どもの権利における大人の役割について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					
6	児童養護の体系：施設養護、家庭の養護、在宅養護（在宅福祉サービス）等の全体を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					
7	児童養護の制度：児童養護の相談機関を知る 児童相談所、児童家庭相談等について具体的に知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					
8	施設養護について(1)：児童養護施設について 施設の役割、施設で暮らすこと、施設の問題と課題を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					
9	施設養護について(2)：児童養護施設について 当事者の手記より学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					
10	施設養護について(3)：乳児院について 情緒障害児短期治療施設について 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					
11	家庭的養護について：里親とは 現状と課題を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
12	施設養護の実際：日常生活および自立支援について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
13	社会的養護児童のアセスメント(1) 課題に対して小レポートの提出 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
14	社会的養護児童のアセスメント(2) 事例検討を通じて社会的養護児童の援助の難しさを知り、チームアプローチの大切を知る 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
15	社会的養護児童のアセスメント(3)：事例検討を通じてアセスメントを繰り返すことの重要性を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)
時間外での学修	児童養護施設、里親制度に関わる当事者の手記を最低一冊は読んでおいてください。そこから、自らの体験を通じて感じとることも大切な学修のひとつです。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	授業では演習も取り入れます。保育現場には多くの課題を抱えた子ども達がたくさん在籍しています。子どもを深く愛し、寄り添える保育者になるために学んでいきましょう。 オフィスアワーは、H号館207号室 木曜日16時10分からです。

【ES】子ども家庭支援の心理学		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	大橋 淳子・茂木 七香						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	茂木：病院臨床心理士6年、学生相談室臨床心理士8年、大橋：幼稚園教諭・保育士28年						
授業内容	保育の場では会う子どもやその家庭への援助を行うためには、目の前の子どもがこれまでどのようなプロセスを辿ってきたか、そしてこの先どのように成長していくようになるかという生涯発達の視点や知識が必要となります。そしてその子どもが育ってきた家庭にはどのような役割や機能があるのか、その家庭は社会の中にどのように位置づけられているか、と、全体を俯瞰的に捉える視点も必要です。この授業の前半では人の生涯発達を子ども理解の観点から捉え直し、子どもの精神保健について学びます(茂木)。後半では、子どもを育てる拠点である家庭・家族と、それを取り巻く社会について学びます(大橋)						
授業方法	基本的には講義形式ですが、課題に取り組み、自分自身について振り返って記述する、グループワークに参加する、など能動的な学び(アクティブラーニング)を前提とした方法も取り入れて授業を行います。						
到達目標	知識・理解	子どもの心理的発達を踏まえた援助方法や、子ども家庭支援を適切に行うための知識を修得する。					
	思考・判断・表現	子ども家庭を取り巻く社会を理解し、子どもの行為を発達段階に応じて分析・判断し、時代のニーズに合わせた支援を行うために必要な視点を持つことができる。					
	技能	子ども家庭支援に必要な技術や情報収集能力を持ち、保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけようとする。					
	関心・意欲・態度	社会事象や子ども家庭の置かれている環境に関心を持ち、自らの実践を振り返って研鑽に努めようとする。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	授業時間内課題		10	10	10	5	35
	授業時間外課題		15	15	-	5	35
	レポート(2回)		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		35	35	10	20	100	
評価の特記事項	レポート課題はルーブリック(評価基準)とともに提示します。授業時間内課題とは、授業中に記入し、提出するワークシートやミニツツペーパーのことです。受講態度は授業への取組みの様子で評価します。						
テキスト	『子ども家庭支援の心理学【シリーズ知のゆりかご】』青木紀久代 みらい(2,100円) ISBN:978-4-86015-482-0 教科書は購入してください。書き込み欄もあり、事例も沢山載っているので、一冊隔々まで活用します。						
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考書は授業中に紹介します。補助教材を授業時に適宜配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1 茂木	生涯発達について：ライフサイクルとライフコース、発達課題、発達領域・発達理論 [課題(復習)]自分のこれまでの人生を振り返り、人生曲線を書いてみる。(2~4h)						
2 茂木	乳幼児期：愛着の発達、心身の特徴(言葉、イメージ、歩行、思考、行動) [課題(復習)]乳幼児期の子どもに必要な援助について考える(2~4h)						
3 茂木	授業時間外課題(乳幼児への心理学的援助)を用いたグループワーク 学童期：ピアジェの認知発達、言語発達 道徳性 仲間関係 [課題(復習)]学童期における仲間の役割について考える(2~4h)						
4 茂木	思春期・青年期：身体的変化と性的成熟 自我同一性 [課題(復習)]思春期・青年期の子どもとSNSの関係について考える(2~4h)						
5 茂木	成人期：ライフコースの多様化 就業形態 婚姻状況 心理的危機 [課題(復習)]成人期の心理的問題について調べる(2~4h)						
6 茂木	老年期：加齢変化 認知機能 アイデンティティの変化 個人差 [課題(予習)]子どもの精神保健上の諸問題について調べてくる(2~4h)						
7 茂木	授業時間外課題(子どもの精神保健上の諸問題)を用いたグループワーク 精神保健：心の健康に関わる症状 レジリエンス [課題(復習)]ゲーム・スマホ依存について考える(2~4h)						
8 茂木	授業時間外課題(ゲーム・スマホ依存)を用いたワーク まとめ：事例をもとに、学修した内容を振り返る。 [課題(復習)]課題に基づいてレポートを作成する(8~10h)						
9 大橋	子どもを取り巻く社会的状況：現代の子育ての問題点、保育における子育て支援 [課題(復習)]自分が育ってきた環境とこれからの人生を考える。(2~4h)						
10 大橋	家族・家庭の意義：家族・家庭のかたちとその変化、現代の親子関係、子育て期における家族の問題、 [課題(復習)]現代の家族・家庭の問題点と愛着行動(アタッチメント)について考える。(2~4h)						
11 大橋	ライフコースと仕事・子育て：グループワーク、親になるということやライフコースと仕事について [課題(予習)]自分の人生曲線を見直してみる。(2~4h)						
12 大橋	多様な家庭形態とその理解：現代の多様な家庭への理解と援助にあたってのポイント [課題(復習)]多様な家庭形態に合わせた支援の実施について考える。(2~4h)						
13 大橋	特別な配慮を必要とする家庭：グループワーク、多様な家庭を想定し、配慮や支援の仕方を実際に行う。 [課題(予習)]想定した家庭に合わせた配慮や支援を発表・実演できるように考えをまとめる。(2~4h)						
14 大橋	発達支援の必要な子どもがいる家庭：家庭についての理解と支援にあたってのポイント [課題(復習)]学んだ内容から早期発見・早期療育と医療ケア児をめぐる課題を考える。(2~4h)						
15 大橋	子育て支援についてのまとめ：子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を授業で学んだことを振り返り、総合的なまとめを行う。 [課題(復習)]保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領より振り返り、レポートを作成する。(8~10h)						

時間外での学修	毎回、授業時間外課題があります。次回授業のワークで用いることもありますので(反転授業)、しっかり取り組んで下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	「目の前の子ども」と「その後ろにある家庭や社会」との両方を捉える視点をこの授業で培って欲しいです。日常生活や実習などで、子どもの言動をたくさんインプットして授業に持ってきて下さい。オフィスアワーは、茂木：火曜日10時～12時（A306）、大橋：木曜日12時10分～13時（H205）です。

【ES】子どもの理解の理論及び方法		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	名和 孝浩						
資格・制限等	幼免・保資必修						
実務家教員	保育所保育士・9年						
授業内容	集団討議やロールプレイを通し、子どもを理解するうえでの基本的な考え方やその方法、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。						
授業方法	特にグループワークやロールプレイ形式での事例検討や意見交流を多く行うため、参加態度や発言内容を重視する。						
到達目標	知識・理解	子ども理解に必要な観察的視点や、保育者の援助との関連を説明できる。					
	思考・判断・表現	子どもの内面理解だけでなく、それを基にした保育者の援助について考えることができる。					
	技能	子ども理解のために必要な観察的視点を持ち、内面を読み取ることができる。					
	関心・意欲・態度	主体的な学びの姿勢をもち、保育者としての専門性を得られるよう自己研鑽できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		10	20	20	-	50
	受講態度		10	10	10	20	50
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、発表やグループワークの参加態度から総合的に評価します。						
テキスト							
参考書・教材	『保育所保育指針解説書（厚生労働省版）平成30年』フレーベル館 『教育要領と保育指針 幼稚園教育要領解説（文部科学省版）平成30年』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府版）平成27年』フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 〔課題(予習)〕これまでに経験した保育実践を事例として整理し、まとめておく(1h)						
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握 〔課題(復習)〕0~5歳児の発達についてまとめる(3h)						
3	エピソード記録の必要性和子ども理解の方法 課題としたエピソードの確認 〔課題(復習)〕自分が経験した保育実践をエピソードとしてまとめる(1h)						
4	ロールプレイを通して子どもの発達と内面の読み取りについて考える 〔課題(復習)〕保育者の言葉かけについて自分なりに考え、まとめる(1h)						
5	ロールプレイを通して保育者の子どもを捉える視点について考える 〔課題(復習)〕保育者の言葉かけについて自分なりに考え、まとめる(1h)						
6	ロールプレイを通して保育者の具体的な援助と方法について考える 課題の確認；課題としてまとめた自分の考えから具体的な保育内容について考えます 〔課題(復習)〕保育者の言葉かけについて自分なりに考え、まとめる(1h)						
7	0~1歳児における子ども理解について 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる(1h)						
8	2歳児における子ども理解について 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる(1h)						
9	3歳児の子ども理解について「3歳児の保育記録～前半～」から 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる(1h)						
10	3歳児の子ども理解について「3歳児の保育記録～後半～」から 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる(1h)						
11	4歳児の子ども理解について「4歳児の保育記録」から 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる(1h)						
12	5歳児の学びについて「5歳児の保育記録」から 〔課題(復習)〕各年齢の学びと遊びについてまとめる(1h)						
13	子ども理解に基づいた遊びを考える保育者の視点 〔課題(復習)〕指導計画作成時にどのような視点から遊びを考えているか振り返る(1h)						
14	子ども理解に基づく保育の計画 〔課題(復習)〕これまで自身が作成した保育指導案について資料をまとめる(1h)						
15	まとめ 課題の確認 〔課題(復習)〕本授業での学びを振り返り、今後の保育実践に向けて意見をまとめる(1h)						
時間外での学修	これまでに蓄積した実習記録から事例を導けるよう、資料をまとめ、整理しておきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	遊びを中心に子どもが学びを深める保育実践力を理解すること。またグループワークや事例検討を通して、多角的に考察・分析する保育者としてのまなざしを育てましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー（名和研究室、月曜15：00～16：00）を活用してください。						

【ES】教育相談		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	茂木 七香						
資格・制限等	幼免必修						
実務家教員	病院臨床心理士6年・学生相談室臨床心理士8年						
授業内容	保育や教育、療育などを行う際に、主となる活動を支えるための教育相談という仕事があります。この授業ではまず始めに教育相談の歴史や意義を学び、その対象となる相手を理解して適切な援助を行うための基本的な知識や心がまえ、実際に役立つ技法について学びます。特にカウンセリング的アプローチのひとつであるピアヘルピングについて、臨床現場だけでなく日常生活でも実際に使える技法を身につけます。						
授業方法	基本的には講義形式ですが、ピアヘルピングのエクササイズやグループワークなどもあります。他の人と協力しながら課題に取り組みます。						
到達目標	知識・理解	教育現場で出会う対象を専門職として援助するために必要な知識を身につけることができる。					
	思考・判断・表現	援助する対象の姿を、その心理状態や理解の度合を考慮して総合的に判断し、関わりに活かそうとする。					
	技能	援助する対象を理解し、相手の特性に合ったコミュニケーションを行うことができる。					
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自己理解や他者理解に努め、周囲の人々との連携に努めようとする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート(中間・期末)		15	15	-	-	30
	授業時間内課題		-	15	10	5	30
	授業時間外課題		10	10	5	5	30
	受講態度		-	-	5	5	10
合計(点)		25	40	20	15	100	
評価の特記事項	レポート課題(中間・最終)はルーブリック(評価基準)とともに提示します。授業時間内課題とは、授業中に記入して提出していただくミニツツペーパーとワークシートのことです。受講態度は授業全体への取り組みの様子で評価します。						
テキスト	「ピアヘルパーハンドブック(日本教育カウンセラー協会編、図書文化社、1500円 ISBN978-4-8100-1343-6)」に基づいて一部の授業を行うので、できるだけ購入して下さい。						
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 必要な教材は授業時に配付します。参考書なども適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	教育相談の基礎知識と基本姿勢 [課題(復習)]教育相談とは何か自分なりに考えてみる(1~2h)						
2	教育相談における保育者の役割と専門性 [課題(復習)]保育の現場で保育者にできる教育相談は何か考える(1~2h)						
3	カウンセリング概論 構成的グループエンカウンター体験 [課題(復習)]授業での体験を振り返る(1~2h)						
4	カウンセリング概論 カウンセリングの定義と歴史、その必要性 [課題(復習)]カウンセリングについてまとめる(1~2h)						
5	カウンセリングスキル ピアヘルピングとは 非言語的技法 [課題(復習)]日常場面で使われている非言語的技法を挙げる(1~2h)						
6	カウンセリングスキル 言語的技法(1) 受容・繰返し・明確化 [課題(復習)]日常会話の中から言語的技法を見つける(1~2h)						
7	カウンセリングスキル 言語的技法(2) 支持・質問 [課題(復習)]日常会話の中から言語的技法を見つける(1~2h)						
8	カウンセリングスキル 様々な問題への個別相談以外の対処法 [課題(復習)]今までに出会った事例を振り返る(1~2h)						
9	カウンセリングスキル 様々な領域における問題対処の方法 [課題(復習)]問題対処の方法についてまとめる(1~2h)						
10	ピアヘルパー演習 ペアワーク グループワーク [課題(復習)]演習を振り返る(1~2h)						
11	幼児が抱えている問題や不適応について [課題(復習)]事例を読んで、対応について中間レポートを書く(2~4h)						
12	レポートを使った反転授業 幼児が起こす問題行動や非行について [課題(復習)]問題行動について調べる(1~2h)						
13	保護者とのかわり方と支援について [課題(復習)]保育現場でできる保護者への教育相談を考える(1~2h)						
14	地域連携の中での教育相談の役割と連携方法 [課題(復習)]地域連携の中での教育相談のイメージを書いてみる(1~2h)						
15	まとめ 教育相談の意義と方法 [課題(復習)]課題にもとづいて最終レポートを作成する(2~4h)						
時間外での学修	毎回の授業時間外課題やレポート課題にしっかり取り組んで下さい。次回の授業で用いることもあります(反転授業)。日常生活では、授業で学修した知識や技法を、身の回りの人とのコミュニケーションに早速活かしてみして下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	この授業で学ぶピアヘルピングについての学修を活かすために、ピアヘルパー資格試験の受験にぜひ挑戦してみてください。将来きっと、公私ともにあなたを支える学びの証になります。オフィスアワーは毎週火曜日の10時~12時、それ以外の時間でも、A306(A号館3階)に気軽に来てください。						

【ES】特別支援教育		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	松村 齋						
資格・制限等	幼免必修						
実務家教員	学校教員20年						
授業内容	教育の現場では、特別な教育的ニーズを有する子どもに対して、適正な支援が求められています。本科目では、特別支援教育の意義、対象となる障害に関する基礎的な知識、理解、教育の現状について解説し演習を通じて学びます。						
授業方法	講義形式 授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。一部「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。						
到達目標	知識・理解	特別支援教育の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身につけることができる。					
	思考・判断・表現	支援者としての考え方と役割を理解し、自分なりの保育者観を持って、問題や課題に向き合うことができる。					
	技能	幼児児童生徒一人ひとりの考え方・学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる。					
	関心・意欲・態度	連携・ネットワークの視点・方法を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身につけることができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	10	20	-	60
	発表・レポート		-	5	10	5	20
	自己評価		5	-	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		35	15	35	15	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。						
テキスト	『子どもと保護者のココロに寄り添う！エピソードで学ぶ！特別支援教育A to Z』松村 齋 明治図書 (1,860円) ISBN: ISBN-10: 4181226107 ありません。						
参考書・教材	授業時にプリント配付します。 授業時に適宜紹介します。 特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領(文部科学省)						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	特別支援教育の現状 特別支援教育の意義、学校教育法一部改正による特別支援学校・特別支援学級への転換、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置、個別的教育支援計画の作成、学習指導要領の改訂等を解説する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3~6h)						
2	視覚障害児の理解 視覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題(準備)]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3~6h)						
3	聴覚障害児の理解 聴覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3~6h)						
4	知的障害児の理解 知的障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3~6h)						
5	肢体不自由児の理解 肢体不自由の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3~6h)						
6	病弱児の理解 病弱・身体虚弱の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3~6h)						
7	重複障害児の理解 重複障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3~6h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	LD児の理解 学習障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）
9	ADHD児の理解 ADHDの児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）
10	自閉症児の理解 自閉症の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）
11	情緒障害児の理解 情緒障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）
12	特別支援学校の教育の実際 特別支援学校の教育課程、指導方法、特別支援学校のセンター的機能の実際等を紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）
13	特別支援学級の教育の実際 特別支援学級の現状、教育課程の編成、指導の実際等について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）
14	通級による指導の実際 通級による指導の位置づけ、教育課程、指導の実際等について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）
15	小学校・中学校等に於ける特別支援教育の実際 通常の学級と通級指導教室の連携、通常の学級における指導体制の整備、校内委員会、研修等について実際を紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）
時間外での学修	特別支援教育に関する当事者の著書を数冊熟読し、当事者の思いが理解できる保育者となれるように常に心がけておいてください。 特別支援教育に関係する学会やシンポジウム等に積極的に参加するようにしてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	幼稚園、小学校等では、現在、特別な教育的ニーズを有する園児児童生徒等の支援は大きな柱のひとつとなっています。積極的な機会を見つけて、学校園等に出向くように心がけてください。 オフィスアワーは、H号館H207号室 木曜日16時10分からです。

【ES】子どもの食と栄養		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	後藤 恵子						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員							
授業内容	栄養に関する知識の修得。乳幼児期の食生活や栄養が生涯を通じた健康と考え、食の大切さを知る。保育現場で子どもの身体状況や栄養状態に応じた食生活の支援ができるよう知識・技能を身につける。						
授業方法	講義や実習を通し、知識や技能を身につける。実習で提示されたテーマをグループ内で話し合い、協力して作業する事で、互いに講義で得た知識を確認し合う。						
到達目標	知識・理解	食生活や栄養に関する知識の修得					
	思考・判断・表現	子どもの発育・発達に応じた必要な食事・栄養について理解する 子どもの身体状況や栄養状態に応じた支援ができるスキルを身につける					
	技能	食育の基本を理解し、実践の現場で子どものみならず、保護者へどのように伝えるかを考える					
	関心・意欲・態度	実習やグループ内で意見交換を通じ、連携・協力・主体的参加の能力を身につける					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	10	-	-	50
	課題レポート		10	5	5	-	20
	実習記録		-	-	10	5	15
	受講態度		-	-	-	15	15
合計(点)		50	15	15	20	100	
評価の特記事項							
テキスト	『子どもの食と栄養』監修 公益財団法人 児童育成協会 編集 堤ちはる 藤澤由美子 中央法規 (2,000円) ISBN:978-4-8058-5792-2						
参考書・教材	新保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領 必要な資料は随時配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	シラバスの説明、オリエンテーション/ 子どもの健康と食生活の意義 【課題(復習)】子どもの食生活の現状と課題等授業で学んだ内容をまとめる(1h)、演習問題：自身の成長や食生活についてレポートする(2h)						
2	栄養の基本/ 子どもの栄養の特徴、食べ物のゆくえ 【課題(復習)】栄養の消化・吸収・代謝について、また子どもの栄養の特徴について授業で学んだ内容をまとめる(1h)、演習問題：食べ物のゆくえについてレポートする(2h)						
3	栄養素の種類とはたらき 【課題(復習)】各栄養素の種類や働きについて授業で学んだ内容をまとめる(1h)、演習問題：栄養素の働きについて正しい食育が実践できるようレポートする(2h)						
4	日本人の食生活の目標(日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド、食生活指針) 【課題(復習)】日本人の食文化について授業で学んだ内容をまとめる(1h)、演習問題：食事バランスガイドを用いて自分自身の食生活を認識する(2h)						
5	乳児期の授乳の意義と食生活 【課題(復習)】乳汁栄養について授業で学んだ内容をまとめる(1h)、演習問題：乳汁栄養についての注意点等レポートする(2h)						
6	乳児期の離乳の意義と食生活/ 離乳食実習準備 【課題(復習)】離乳食の進め方、離乳食作りの留意点等について授業で学んだ内容をまとめる(1h)、演習問題：手作り離乳食とベビーフードについてレポートする(2h)						
7	幼児期の心身の発達と食生活/ 幼児期のお弁当・間食の献立作成 【課題(復習)】幼児期に必要な栄養と正しい食生活のあり方について授業で学んだ内容をまとめる(1h)、演習問題：偏食や遊び食べなどの指導法についてレポートする(2h)						
8	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活 【課題(復習)(準備)】学童期・思春期の成長と肥満や痩せの問題等について授業で学んだ内容をまとめる(2h)、調理実習の予習・準備(1h)						
9	実習 離乳食の調理 【課題(復習)】実習記録の作成(2h)						
10	実習 幼児期の食事の調理 お弁当と間食 【課題(復習)】実習記録の作成(2h)						
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギーのある子どもへの対応 【課題(復習)(準備)】食物アレルギーの対応について授業で学んだ内容をまとめる(2h)、調理実習の予習・準備(1h)						
12	実習 食物アレルギーのある子どもへの対応 【課題(復習)】実習記録の作成(2h)						
13	保育における食育の意義・目的と基本的考え方/ 食育の内容と計画および評価 【課題(復習)】乳幼児とその保護者に向けた食育について授業で学んだ内容をまとめる(2h)						
14	地域や家庭と連携した食育の展開/ 家庭や児童福祉施設における食事と栄養/ 食育演習 【課題(復習)】保護者への食の支援について授業で学んだ内容をまとめる(2h)						
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 / 食育演習発表 【課題(復習)】疾病および体調不良の子どもへの対応について授業で学んだ内容をまとめる(1h)、復習プリントまとめ(3h)						
時間外での学修	講義や実習で学んだことは必ず復習し、分かりやすくまとめておきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						

受講学生への
メッセージ

生活環境・社会環境が複雑多岐にわたる中、保育現場に対する社会の期待や要望はますます大きくなります。ここで修得した知識を生かせるようしっかり学びましょう。
オフィスアワー：質問等は毎週金曜日の講義の前後と休憩時間に随時対応します。

【ES】保育内容「健康」の指導法		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	今村 民子						
資格・制限等	幼免・保資必修						
実務家教員	小学校、幼稚園教諭9年						
授業内容	領域「健康」は、幼児の心とからだの健康な育ちを中心に扱う領域です。幼児教育における「健康」の位置づけ、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「健康」のねらいと内容について学修するとともに、乳幼児期の健康教育の基本的な理論の理解を深めます。乳児期の運動に関する発育発達についても学び、実際に予想される子どもの活動や子どもが楽しむ身体活動について考えながら、保育者の適切な援助の方法とは何かを学びます。						
授業方法	講義と演習						
到達目標	知識・理解	幼児教育における領域「健康」のねらい及び内容を理解する					
	思考・判断・表現	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育を構想する力を養うための保育者の在り方を理解する					
	技能	領域「健康」における具体的な保育を想定した手立てや環境構成を考える					
	関心・意欲・態度	子どもの健康や安全に関心を持って実践を振り返り、適切な援助を行うことができる					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	期末試験		30	-	-	-	30
	演習への姿勢		-	20	-	-	20
	レポート		-	-	30	-	30
	授業参加への態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	20	30	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『演習保育内容健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』井狩芳子 株式会社萌文書林(1,800円) ISBN:978-4-89347-275-5						
参考書・教材	『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 その他必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	健康とは 乳幼児期の健康な生活とは 子どもの健康な育ちについて考えをまとめよう。領域「健康」の内容を理解する。 [課題(復習)]テキスト第1部を読んで内容を理解する。(1h)						
2	子どもの全面発達について考えよう。 現代の子の健康課題と対応策を知る。五感を獲得することの大切さを知る。 [課題(復習)]テキスト第3章を読んで内容を理解する。(1h)						
3	五感をを使う体験をしてみよう：戸外へ出かけて調査、探索し、五感をを使って遊びを見つける。課題をミニレポートにまとめる。[課題(復習)]体験した内容を振り返ってまとめる。(1h)						
4	五感をを使う体験を遊びにして発表する：<グループワーク>みつけた遊びを紹介し、子どもの遊びを提案して、紹介する。DVD「自然は友だち」を視聴して自然体験の大切さを話し合う。 [課題(復習)]内容を振り返って理解を深める(1h)						
5	子どもの身体の発達：未熟から成熟への発達の概要とその援助について理解する。 [課題(復習)]第7章を振り返って理解を深める。(1h)						
6	子どもの運動発達の保障と体力：子どもの運動発達の特徴を理解して運動遊びを構成できるようにする。 [課題(復習)]第8章を振り返って理解を深める。(1h)						
7	子どもの育ちと遊びの保障：「遊び」とは何かをもう一度考えて、自ら運動遊びをする子どもを育てるための手立てを計画する。[課題(復習)]第13章を振り返って理解を深める。(1h)						
8	子どもの育ちと遊びの実践1：「運動遊び」を計画しよう。 <グループワーク>子どもの年齢に応じた運動遊びの指導計画を立てる。課題をミニレポートにまとめる。[課題(復習)]実際に遊びができるようにしてくる。(1h)						
9	子どもの育ちと遊びの実践2：<発表>グループごとに考えた運動遊びを実際にやってみる。[課題(復習)]実際に遊びができるようにしてくる。(1h)						
10	子どもの育ちと遊びの実践3：<発表>グループごとに考えた運動遊びを実際にやってみる。 [課題(復習)]実際に遊びができるようにしてくる。(1h)						
11	子どもの育ちと遊びの実践4：<発表>実際にやってみた運動遊びをさらに工夫して展開する。 [課題(復習)]実際に遊びができるようにしてくる。(1h)						
12	基本的な生活習慣獲得の保障1 基本的な生活習慣にかかわるさまざまな動作は発達年齢に合わせて指導し、達成感や満足感をも育てるものであることを知る。 [課題(復習)]今日の内容(第10章)を振り返って理解を深める。(1h)						
13	基本的な生活習慣獲得の保障2 基本的な生活習慣の自立を促すためのおたより記事を書いてみよう。年齢によりできることが発達する視点を保護者に伝えることができるようにする。 [課題(復習)]今日の内容を振り返って理解を深める。(1h)						
14	安全への配慮 子どもの視点に立った安全生活の保障：リスクとハザードの理解し、園庭にある遊具について安全を考えてみる。[課題(復習)]第11章、12章を振り返って理解を深める。(1h)						
15	乳幼児の食育について 四季を楽しみ、食文化を知る。食育の必要性について知り、園でどのような取り上げ方をすることが効果的か考える。季節を感じる行事食についてまとめる。 [課題(復習)]今日の内容(第13章)を振り返って理解を深める。(1h)						
時間外での学修	実習で経験した子どもの基本的な生活習慣、安全への配慮、食育など「健康」の内容に関することについて振り返ってみましょう。また子どもの運動をする姿について、あなたなりのイメージを持ち、どんな支援が必要なのか考えてみましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	子どもが体を動かして遊ぶ楽しさをみなさんといっしょに考えてみたいと思います。 オフィスアワー：H204研究室毎週金曜16:20～17:00						

【ES】保育内容「環境」の指導法		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	大橋 淳子						
資格・制限等	幼児・保育必修						
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・保育士・28年						
授業内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「環境」を中心にして、幼児教育のねらい・内容・方法・活動等のあり方を理論と実践の両面から考えていきます。領域「環境」は周囲の様々な環境に、好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことをねらいとしています。そのことをふまえ、乳幼児期にふさわしい生活を通して、環境と関わる力が育つ保育の実現を目指します。						
授業方法	講義と演習を含めた授業展開を進めていきます。保育者としての資質を高めるために、体験と自分なりに考える力を重視した授業形態をとります						
到達目標	知識・理解	自然や周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり自らの感性を磨く。					
	思考・判断・表現	理想の保育者像を常に描き、保育技術の研鑽に努める。					
	技能	保育所保育指針・幼稚園教育要領に於ける人的環境・物的環境の役割を理解し、一人一人の発達に応じた援助や環境構成をすることができる。					
	関心・意欲・態度	職業や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、誰とでも幅広く柔軟に関わることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	-	-	-	20
	レポート		-	20	-	-	20
	実技試験		-	-	30	-	30
	受講態度		-	-	-	20	20
	提出物		-	-	-	10	10
	合計(点)	20	20	30	30	100	
評価の特記事項							
テキスト	『保育・ネオシリーズ 保育内容・環境』師岡章・寺田清美・瀧川光治・原子はるみ・野口隆子・掘越紀香・吉村香・坪川紅美 同文書院(2,310円)ISBN:978-4-8103-1333-8						
参考書・教材	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 その他必要に応じて資料配付・紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	領域「環境」の意義・保育所保育指針・幼稚園教育要領による保育の基本と保育内容の捉え方について学ぶ。・みずきの郷でフィールドビンゴを楽しむ。【課題（復習・準備）】実習園の環境について次回発表できるようにまとめる。(1~2h)						
2	実習園の室内環境、室外環境・実習園の環境構成図を作成し、ねらいや保育内容から環境構成のあり方を話し合う。・飼育栽培活動について話し合う。(グループ活動)【課題（復習）】学修した内容を復習する。(1h)						
3	子どもの発達と環境・子どもの遊びと環境とのかかわり及び個の発達・集団の発達と保育者の役割について学ぶ。【課題（復習）】学修した内容を復習する。(1h)						
4	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際(1)グループ学習・シャボン玉遊びに必要な材料、シャボン液の作り方を及び、野菜の栽培の調べ活動の準備をする。・環境構成図を作成する。・野菜(ハツカダイコン等)の栽培の準備をする。【課題（復習・予習）】シャボン玉遊びの環境構成図を完成させる。野菜の種まきの仕方を調べる。(1h)						
5	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際(2)グループ学習・環境構成図に基づいて環境設定をし、シャボン玉遊びの展開について学ぶ。・好きな野菜(ハツカダイコン等)の種を蒔き、サツマイの生長を観察する。【課題（復習）】シャボン玉遊び・野菜の種まきをした反省、感想をまとめる。(1h)						
6	身近な素材や自然に触れる保育の実際 グループ学習・試行錯誤しながら、友だちとストローひこうき遊びが楽しめる環境構成を考える。・野菜(ハツカダイコン等・サツマイモ)の生長を観察し、保育活動への活用の仕方を話し合う。【課題（復習）】ストローひこうき遊びをした環境構成図を作成する。(1h)						
7	子どもの発達と自然環境(1)・自然環境へのかかわりを通して育つもの、季節感を感じる保育の展開について学ぶ。・野菜(ハツカダイコン等・サツマイモ)の生育を引き続き観察し、保育活動への活用の仕方を話し合う。【課題（復習）】学修した内容を復習する。(1h)						
8	子どもの発達と自然環境(2)・自然環境へのかかわりを通して育つもの、季節感を感じる保育の展開について学ぶ。・野菜(ハツカダイコン等・サツマイモ)の収穫体験を通して、保育活動への活用の仕方を話し合う。【課題（復習）】学修した内容を復習する。(1h)						
9	自然物を使った遊びの実際(1)・みずきの郷で木の実、草の実、落ち葉等を探し遊び方を考える。【課題（復習）】木の実や木の葉を使った作品を完成させる。(1h)						
10	自然物を使った遊びの実際(2)・木の実、草の実、落ち葉等に他の材料を加えて遊びを発展させる。【課題（復習）】自然物を使った遊びについてまとめる。(1h)						
11	子どもの発達と園の環境・環境による教育の実践、園内環境の構成と課題について学ぶ。・実習園の園内環境についてグループで話し合う。【課題（復習）】グループで話し合ったことや学修したことをまとめる。(1h)						
12	人的環境としての友だち・保育者の役割、・人的環境と子どもの育ち、子どもと保育者のかかわりについて学ぶ。・DVDを視聴し、保育者の役割についてグループで話し合う。【課題（復習）】学修した内容を復習する。(1h)						
13	子どもの発達と物的環境の役割、・人的環境と物的環境の関係、園具、教具、素材の意義について学ぶ。【課題（復習）】学修した内容を復習する。(1h)						
14	好奇心、興味、関心を育てる環境、・園生活の中で文字への関心や数量概念を育てる遊びについて学ぶ。・かるた・トランプ・すごろくなどの遊びを楽しむ。【課題（復習）】学修した内容を復習する。(1h)						
15	これからの幼児教育と課題、・科学性の芽生え(知的発達)を促す環境と援助について学ぶ。・お正月遊びを楽しむ(こま・けんだま・たこあげなど)【課題（復習）】総合的なまとめの復習をする。(2h)						
時間外での学修	日頃から、周囲の子どもの姿、自然や季節の移り変わり等に関心を持ち、感性を磨きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						

受講学生への
メッセージ

幼児にとって、保育者の環境に関わる姿、「感性」が大切になってきます。環境との関わりを通して、幼児の内面に何が育つのか、何を育てようとしているのか、保育者になったつもりでイメージしてください。オフィスアワーは大橋研究室(H205)で毎週木曜日の昼休みです。

【ES】保育内容「表現」の指導法		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	立崎 博則・光井 恵子						
資格・制限等	幼免・保資必修						
実務家教員							
授業内容	保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた主体的・対話的な保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体の動きや五感、音やリズム、もの色や形や質感など様々な表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し、応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動の構想、計画、指導、実践する力を身に付けていく。						
授業方法	前半は講義を行い、後半は表現活動を中心に授業を展開します。						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ・ 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・ 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ・ 領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 					
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ・ 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 					
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育構想に活用することができる。 					
	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ・ 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 					
	備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。 					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		10	20	-	-	30
	ポートフォリオ		30	-	30	10	70
	合計(点)		40	20	30	10	100
評価の特記事項	テキスト						
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します						

内容	
実施回	授業内容・目標
1	領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現する姿と関連付けることを通して理解する。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
2	幼児の発達や学びの過程を理解し、表現活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に考え、幼児の表現における評価の考え方を理解する。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
3	幼児の表現あるいは表出について具合的な場面や事例、映像からその表現の背景や要因、幼児の心情・認識・思考及び動き等を考察する。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
4	幼児期の表現活動と、小学校の体育、生活、音楽や図画工作その他の様々な教科との学びの連続性について理解し、具体的な実践を考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
5	インクルーシブ保育における表現活動や遊びの可能性について、様々な素材を用いた具体的な事例を通して理解し、保育構想への活用を考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
6	国内外の保育研究や論文やインターネットで発信されている表現活動の実践例から動向や課題を知り、自らの保育構想の向上に取り組む。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
7	感性的な出会いの豊かな音環境をもとに、五感を使った総合的な表現活動の実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
8	手足、身体を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
9	自然や自然物を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
10	身近な素材を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や活動の面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
11	年齢による発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動の遊びを広げるための言葉掛けや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
12	表現における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び、実際に体験することを通し、保育構想に活用できるアイデアを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
13	これまでの学びを踏まえて総合的な表現活動をするために指導案をグループで作成する。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
14	作成した指導案に沿って模擬保育を行い、その振り返りと教材研究を深める。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
15	総合的な表現活動の実践を通して、保育における表現活動について考え、自らの保育構想の向上へと繋げていく。 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。(1h)
時間外での学修	表現活動をするにあたって(準備)道具、環境、アイデアなどを事前に整理し子ども達に伝えたいこと(目的)をもって受講してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	表現を通して子ども達に何を伝えたいか日々考えていきましょう。 オフィスアワー：立崎：(H201)金曜11:00-12:00、光井：(A307)木曜日 昼休み

【ES】教育方法論		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	矢田貝 真一						
資格・制限等	幼免必修						
実務家教員	中学校教諭・20年						
授業内容	教育や保育の実践には、教育方法に関する理論的・実践的知識の理解が不可欠です。また、情報社会での生活環境の変化は子供たちにも確実に大きな影響を与えていますが、そうした中で将来の社会を担っていく子供たちにとってどのような資質や能力を育成していくべきなのもたいへん重要となります。こうした観点を踏まえながら、これからの保育者に求められる教育の方法と技術について、情報機器や教材の活用も視野に入れながら、学んでいきます。						
授業方法	講義を中心としますが、グループ活動や発表も取り入れながら具体的な事例に即して進めます。知識を身につけるだけでなく、自分なりのとらえ方や考え方の形成をめざして展開していく予定です。						
到達目標	知識・理解	これからの社会を担う子供たちの資質や能力を育成する保育・教育者に必要な教育の方法や技術、情報機器及び教材の活用について、基本となる知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	教育に必要な指導の技術を踏まえて、情報機器活用と活用能力育成を視野に入れながら、適切な教材の作成・活用に関する基礎的な思考力、判断力、表現力などの能力を身につけることができる。					
	技能	教育の方法、指導や支援の技術、情報機器及び教材の活用に関連する基礎的な技能を身につけることができる。					
	関心・意欲・態度	教育・保育とその方法に興味や関心を持ち、自己の資質や能力の向上をめざして積極的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・○・ の記号は幼児教育学科のDP及び到達指標との結びつきの強さを示す。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	10	10	-	60
	レポート・発表		5	5	10	-	20
	自己評価		-	5	-	5	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		45	20	20	15	100	
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修取組・発表・提出等の状況とします。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	『幼稚園教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年、『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年、『小学校学習指導要領』他文部科学省、平成29年。石垣恵美子・玉置哲淳編著『幼児教育方法論入門[2版]』建帛社。梅村匡史・小川哲也編著『保育者・教育者のための情報教育入門』同文書院。他に必要な資料は配付します。						

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス（この授業の目標と内容、教育の方法を学ぶ意義や学び方と心構えなどを理解する）【課題(復習)】「教育」ということについてこれまで学んだことを復習する(3~5h)
2	教育・保育の方法論(1)基礎理論と子供理解（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、教育方法に関する基礎理論について知識を深め、主体的・対話的・深い学びなど教育方法のあり方、子供理解の方法と具体的事例について理解する）【課題(復習・発展)】学んだ内容に関連した幼稚園や保育所等における具体的な事例を調べてまとめる(3~5h)
3	教育・保育の方法論(2)構成要件と活動（保育を構成する基礎的な要件について知識を深め、園における活動と環境・環境構成の具体的方法について理解する）【課題(復習・発展)】環境構成の具体的方法について、経験した事例に基づいてまとめる(3~5h)
4	教育・保育の方法論(3)評価と記録（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、育みたい資質・能力、子供理解に基づいた評価の意義と考え方、記録の方法と意義について知識を深めて理解する）【課題(復習・発展)】幼稚園や保育所等の評価と小学校の評価について、考え方や方法などのちがいをまとめる(3~5h)
5	指導・支援のスキル(1)説明・提示・発問・指示（教育・保育における話法や板書などの基礎となる技術、必要となる技能や留意する事項を理解してその基本を身につけ、具体的な活用事例について活用できるようにする）【課題(復習)】学んだ内容をもとに具体的な事例を発表できるように復習する(2~4h)
6	指導・支援のスキル(2)教育メディアの活用と指導案の作成（教育メディアの意義と内容、園での指導技術の実際、基礎的な学習指導理論と教育メディアを踏まえた指導案の作成について知識を深めて理解し、活用できるようにする）【課題(復習)】教育メディアを活用した具体的な事例について調べてまとめる・前半の学修内容を振り返ってまとめる(4~6h)
7	中間のまとめ（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、これまで学んだ内容をまとめ、必要に応じて発表する）【課題(復習・発展)】発表したまとめの内容を見直して、不十分なところを復習する(3~5h)
8	指導援助の方法(1)人間関係（人間関係の重要性、人間関係づくりの指導・支援について知識を深めて理解し、具体的な事例について考える）【課題(復習・発展)】授業の中で示された人間関係に関する事例について復習し、自分なりの気づきやとらえ方をまとめる(3~5h)
9	指導援助の方法(2)豊かな遊び（遊びの重要性、遊びの環境設定と指導・支援について知識を深めて理解し、具体的な事例について考える）【課題(復習・発展)】授業の中で示された事例について復習し、自分なりの気づきやとらえ方をまとめる(3~5h)
10	指導援助の方法(3)生活感覚（子供の園での生活とそのとらえ方、生活に関する指導・支援について理解を深めて理解し、具体的な事例について考える）【課題(復習・発展)】授業の中で示された事例について復習し、自分なりのとらえ方や考え方をまとめる(3~5h)
11	指導援助の方法(4)関係・遊び・生活の事例から（これまで考えてきた課題も活用し出し合いながら、指導援助の総合的な事例研究に取り組み、子供のとらえ方の習得と観察力の育成を図る）【課題(復習・準備)】発表に向けて、自分なりのとらえ方や具体的な支援方法などについて考えを総合的にまとめる(4~6h)
12	指導援助の方法(5)課題の発表（これまでの学びや授業外の課題で考えてきたことなどをいかしながら、総合的にとらえてまとめ、指導援助の具体的な方法について発表できる）【課題(復習)】発表された内容をそれぞれまとめ、観点を理解しながら評価する(3~5h)

内容	
実施回	授業内容・目標
13	新しいメディアと教育・保育(1)情報社会と教育 (情報社会の現状、コンピュータと保育、情報機器を活用した効果的な教材等の作成と提示などについて知識を深めて理解する) [課題(予習)]情報環境の変化と教育者・保育者に求められる資質についてまとめる(2~4h)
14	新しいメディアと教育・保育(2)情報社会と保育者 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、園での情報機器の活用方法、保育者に求められる活用能力、情報活用能力を子供に育成するための指導などについて理解を深める) [課題(復習・準備)]授業に関連した課題について自分なりの意見をまとめる(2~4h)
15	レポートの発表と全体のまとめ (調べてきたこれまでの課題も活用しながら、教育方法に関連した課題についてグループなどでまとめ、発表できるようにする) [課題(復習)]配付資料に基づいて授業全体を振り返り、確実に復習する(4~6h)
時間外での学修	[課題]は、授業の到達目標達成に必要となりますので、()の標準学修時間をめどに、確実に学修を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	講義を聴くだけでなく、実習の成果も積極的に生かしながら自分の考えも発表して理解を深めてください。オフィスアワーはA305(A号館3F)で毎週木曜日の16：00から17：00です。質問等があれば、どうぞ。

【ES】障がい児保育		幼児教育学科		2年前期		
		1単位	選択必修	演習	30時間	
教員	上杉 晴美					
資格・制限等	保資必修					
実務家教員	「幼稚園教諭23年」「ことばの教室14年」					
授業内容	障がい児保育 は障がい児保育 での学びをふまえ、レポートにまとめたり発表したりすることを通して、障がい理解についてさらに深めるとともに、保育場面での具体的な支援を考えます。					
授業方法	講義と演習。調べたことをまとめ、発表する活動や小テストなども含めて授業を展開していきます。					
到達目標	知識・理解	障がいについての基礎的な知識を学ぶ。				
	思考・判断・表現	障がい特性や支援についてまとめたり、発表したりすることができる。				
	技能	積極的に資料を調べ、まとめる事ができる。				
	関心・意欲・態度	積極的に資料を調べ、まとめる事ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	10	10	-	30
	小テスト	20	-	-	-	20
	レポート・課題提出・発表	-	15	15	-	30
	受講態度	-	5	-	15	20
評価の特記事項	小テストは、中間の授業内で行います。受講態度は、学修への取り組み状況、ワークシートや提出物の状況などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	ありません。					
参考書・教材	特別支援 教育・保育概論 - 特別な配慮を要する子どもの理解と支援 尾野明美他編著 新・障がいのある子どもの保育 第3版 伊藤健次編 みらい 保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領					

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション(この講義で大切にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について) 「障がい」について考える。 【課題(復習)】障害児保育 のテキストを振り返り、学修した内容を復習をしておきましょう。(1h-2h)
2	障がい児保育をささえる理念 幼稚園や保育所での障がいをもつ子への指導上の留意点について考える。 【課題(予習)】幼稚園教育要領や保育所保育指針から障害を持つ子への留意点を確認しておきましょう。(1-2h)
3	障がいの理解と保育における支援(1) 聴覚障がい児の理解と支援について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
4	障がいの理解と保育における支援(2) 視覚障がい児の理解と支援について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
5	障がいの理解と保育における支援(3) 肢体不自由児の理解と支援について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
6	障がいの理解と保育における支援(4) 知的障がい児の理解と支援について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
7	障がいの理解と保育における支援(5) 発達障がいについて学ぶ 学習障がい(LD)の子どもの理解と支援について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
8	障がいの理解と保育における支援(6) 発達障がいについて学ぶ 自閉症スペクトラム(ASD)の子どもの理解と支援について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
9	障がいの理解と保育における支援(7) 発達障がいについて学ぶ 注意欠如・多動性障がい(ADHD)の子どもの理解と支援について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
10	障がいの理解と保育における支援(8) 発達性協調運動障がい(不器用)の子どもの理解と支援について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
11	障がいの理解と保育における支援(9) 言語障がい(構音障がい、吃音、選択性緘黙など)の子どもの理解と支援について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
12	障がいの理解と保育における支援(10) 重症心身障がい児、医療的ケア児の理解と支援について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
13	家庭や関係機関との連携(1) 保護者や家族に対する理解と支援の方法について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に保護者・家族支援について、調べておきましょう。(1-2h)
14	家庭や関係機関との連携(2) 小学校等との連携について学ぶ。 【課題(予習)】資料や参考書等を元に小学校等との連携について、調べておきましょう。(1-2h)
15	まとめ 支援の場の広がりとながりについて学ぶ。切れ目のない支援をするためにはどうあったらよいか考える。 【課題(復習)】今日の学修を振り返り、まとめておきましょう。今までの資料を整理しておきましょう。(1-2h)

時間外での学修	<p>事前に資料や参考書を読み、自分なりの考えをまとめておきましょう。 保育場面での子どもとの関わりをイメージしてみましょう。調べたことをまとめて発表する活動では、事前に自分自身がわかって説明できるようにしておきましょう。また、声の大きさ、スピード話し方も気をつけて事前に練習しておきましょう。聞く側の立場では、何が重要なのか、わからないことは何か、質問できるようにしましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>資料や参考書に目を通して授業に臨むようにして下さい。また、参考となる本や雑誌などを進んで読むようにしましょう。また、実際の保育の場で、子ども達とどのように関わるのかイメージしてみましょう。オフィスアワーは、講義後教室にて行います。</p>

【EA】社会的養護		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	松村 齋						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	学校教員20年						
授業内容	児童への虐待問題が深刻化しています。その原因として、少子高齢、景気の低迷、社会不安など、子どもを取り巻く環境が大きく変化していることがあげられます。授業では、今一度、子どもの権利や児童虐待について考え、社会的養護の制度や内容を理解し、根拠に基づいたケース(事例)の理解と援助の方法を、より踏み込んで学びます。						
授業方法	講義形式 授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。一部「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。						
到達目標	知識・理解	ケース(事例)を通じて、アセスメントについての深い知識を持ち、現状と課題を理解して説明ができる。					
	思考・判断・表現	保育者として様々な価値観に対応できる柔軟さを身につけることができる。					
	技能	保育者として児童に対して有効な手だてを講ずるためのアセスメント力を高める。					
	関心・意欲・態度	関係機関との連携を通じて、様々な考えや意見をまとめることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	10	20	-	60
	発表・レポート		-	5	10	5	20
	自己評価		5	-	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
		合計(点)	35	15	35	15	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。						
テキスト	授業時にプリントを配付します。						
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 辰巳隆・岡本眞幸『保育士をめざす人の社会的養護内容』みらい/小池由佳・山縣文治『社会的養護』ミネルヴァ書房/増沢高『社会的養護児童のアセスメント』明石書店/その他 授業時に適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：進め方、評価方法などの説明。授業の概要を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)						
2	子どもの権利について：人権としての権利 子どもの権利における大人の役割について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)						
3	社会的養護の概要：社会的養護の必要性・専門性を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)						
4	児童養護問題および政策の特徴：多様化する児童養護施設の取り組みから学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)						
5	里親制度の現状と課題：里親とは 里親になるには 里親制度の課題等を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)						
6	新しい施設養護の理念： 児童福祉施設を取り巻く新しい理念、権利擁護につながる第三者評価事業の導入等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)						
7	社会的養護児童のアセスメント(1)： 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)						
8	社会的養護児童のアセスメント(2)： 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)						
9	社会的養護児童のアセスメント(3)： 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)						
10	施設養護のプロセスの理解： 入所前後の援助 施設内のケア(インケア) 退所前後のケア内容等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	<p>障害児入所施設における基本的な援助・支援：障害をもつ人とノーマライゼーションについて 日常生活援助 余暇活動 療育援助・支援等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)</p>
12	<p>こころの援助(1)： こころの援助とは 施設養護におけるこころの援助 子どもとのコミュニケーション等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)</p>
13	<p>こころの援助(2)： こころの援助とは 施設養護におけるこころの援助 子どもとのコミュニケーション等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)</p>
14	<p>親子関係の援助：親子関係の援助の姿勢 親子関係の調整における保育士の役割等について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)</p>
15	<p>児童福祉施設における保育士の資質と論理： 児童福祉施設で働くということ 援助としての資質を知る パーンアウトを防ぐために等を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題(準備)]配付された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(3~6h)</p>
時間外での学修	<p>参考書・教材等で紹介した著書等を中心に図書館等で関連図書を読んでください。 また、実際に施設の行事等にボランティアとして参加し、見識を深めてほしいと思います。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>日ごろから、各自治体の広報等の情報を収集し、関連する行事やフェスティバル等に積極的に参加をし、当事者の視点にたつて視野を広げてほしいと思います。 オフィスアワーは、H号館H207号室 木曜日16時10分からです。</p>

【ES】保育指導計画の方法		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	名和 孝浩						
資格・制限等	幼免・保資必修						
実務家教員	保育所保育士・9年						
授業内容	保育における指導計画の考え方・立て方について理解する。実際の指導計画の作成を通して、子どもの実態を捉え、子どもの生活に見通しをもち、保護者に信頼し安心してもらうことを実現するための、保育の方向性を明確にする。						
授業方法	指導計画作成から評価までの基礎知識についての講義を基にして、実際に指導計画の作成に取り組む。						
到達目標	知識・理解	保育者としての基礎的知識を身につけ、子どもの活動を予想し、それにふさわしい援助を考えた指導計画の作成ができる。					
	思考・判断・表現	子どもの姿から実態を把握し、遊びや生活へとつなげることができる。					
	技能	子どもの動きをとらえ、遊び場や環境の構成、援助を行うために必要となる保育技術の習得をする。					
	関心・意欲・態度	子どもを取り巻く環境や子どもの人権などに関心をもちながら、自己の実践を振り返り、保育実践力を磨くことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		30	20	20	-	70
	受講態度		-	-	-	30	30
	合計(点)		30	20	20	30	100
評価の特記事項	レポートは授業内で作成した指導計画などを基に評価をします。受講態度は、学修への取組状況、グループワークや発表などから総合的に評価します。						
テキスト							
参考書・教材	厚生労働省/著『保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省/著『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府/著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション・保育の展開における指導計画と役割 〔課題(予習)〕自身がこれまで作成した指導計画の振り返り(2h~4h)						
2	乳幼児の発達と指導計画との関連 〔課題(予習)〕園での指導計画と保育実践例の収集(2h~4h)						
3	乳幼児の遊びと指導計画(課題として収集した保育実践の確認を行う) 〔課題(予習)〕園での指導計画と保育実践例の収集(2h~4h)						
4	短期・長期の指導計画の意義とつながり 〔課題(予習)〕指導計画にどのような種類があるか事前に学習しておく(2h~4h)						
5	個別の指導計画について 〔課題(予習)〕個別の配慮が必要となる子どもの指導計画について調べる(2h~4h)						
6	指導計画の考え方と方法 これまでの課題の確認 〔課題(予習)〕自身がこれまでに作成した指導計画をまとめ、具体的な課題を振り返る(2h~4h)						
7	園での実践を踏まえた遊びの考案 〔課題(予習)〕園で行われている具体的な遊びの収集(2h~4h)						
8	指導計画(部分)の作成(準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔課題(予習)〕指導計画の作成に必要な資料を収集・準備する(3h~4h)						
9	振り返りを基にした指導計画の再考 課題の確認 〔課題(予習)〕指導計画の再構成に必要な資料を収集・準備する(2h~4h)						
10	個別の指導計画の作成(準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔課題(予習)〕個別の配慮や援助が必要となる子どもの保育におけるねらいや内容を調べる(3h~4h)						
11	指導計画(日案)の作成(準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔課題(予習)〕1日の保育の流れを調べ、要点をまとめる(2h~4h)						
12	週の指導計画の作成(準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔課題(予習)〕1週間の保育の流れを調べ、要点をまとめる(2h~4h)						
13	年間指導計画の作成(準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔課題(予習)〕乳幼児期の各クラスの1年間の様子や発達について調べる(2h~4h)						
14	行事における指導計画の作成(準備した資料を基に指導計画を作成する) 課題の確認 〔課題(予習)〕園で行われる行事を調べ、まとめる(2h~4h)						
15	まとめ 〔課題(予習)〕保育実践に役立つ指導計画とはどのようなのかまとめる(2h~4h)						
時間外での学修	実習先や普段の生活場面から、指導計画についての情報を積極的に得られるようにすること。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	よりよい保育を実践するために、指導計画の作成はとても大切です。この授業では文章を書くことが多いですが、その先に保育者としての自己の育ちと、現場に出てからの子どもの育ちが待っていることを励みに取り組んでいきましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー(名和研究室、月曜日15:00~16:00)を活用してください。						

【ES】幼児と音楽表現		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	光井 恵子・小川 寿実子・竹内 美樹・日比 裕美子・加藤 有子・佐々 智美						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員							
授業内容	領域「表現」での音楽を用いた活動をするためには、様々な音楽的スキルが必要です。この授業では、クラス授業（歌唱・リズム演習）と個人レッスン（童謡を中心にピアノの弾き歌い）を行いながら、表現活動する意義を考えたともに技術を学びます。歌唱ではたくさんの童謡に触れ、正しい発声法を学びます。リズム演習では、和太鼓を中心としたリズム楽器で音楽の基礎リズムを確実に身につけます。弾き歌いの授業では様々な調性での伴奏づけを学ぶことを目的とします。						
授業方法	1コマでクラス授業と各自の個人レッスンを受講します。 グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。 クラス授業（歌唱：佐々、リズム演習：加藤） 個人レッスン（光井、小川、竹内、日比）						
到達目標	知識・理解	子どもの歌を通して表現活動の意義を理解し、音楽の基礎リズム、正しい発声法、簡易伴奏法を知る。					
	思考・判断・表現	さまざまな音楽ジャンルの子どもの歌に触れ、表現することができる					
	技能	子どもの歌を様々な伴奏方法で表現することができる。					
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	確認テスト・実技試験・発表		10	10	10	10	40
	達成度		10	10	10	-	30
	受講態度		-	10	-	20	30
	合計(点)		20	30	20	30	100
評価の特記事項	2回の確認テスト・実技試験、発表・受講態度等で評価をします。 受講態度は予習、復習を含めた学修への取り組み状況になります。						
テキスト	『こどものうた100』小林美実監修 井戸秀和編 チャイルド本社 ISBN:9784805481868						
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション（表現活動の意義を考える） 歌唱：正しい発声法を知る 弾き歌い：春の歌から選曲し各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 【課題(復習)】レッスン曲の練習（1～2h）						
2	歌唱：発声練習・子どもの歌を知る（春の歌） 弾き歌い：春の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
3	歌唱：発声練習・子どもの歌を知る（夏の歌） 弾き歌い：春の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
4	歌唱：発声練習・子どもの歌を知る（秋の歌） 弾き歌い：春の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
5	歌唱：発声練習・子どもの歌を知る（冬の歌） 弾き歌い：春の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
6	歌唱：発声練習・子どもの歌を知る（いろいろな歌） 弾き歌い：夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
7	歌唱：発声練習・発表とまとめ 弾き歌い：夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
8	リズム演習：リズム基礎練習 四分、八分、十六分音符と休符を用いて 弾き歌い：確認テスト 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
9	リズム演習：リズム基礎練習 付点の音符と休符を用いて 弾き歌い：夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
10	リズム演習：リズム基礎練習 シンコペーションのリズムを用いて 弾き歌い：夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
11	リズム演習：リズム基礎練習 様々なリズムパターンを用いて 弾き歌い：夏の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
12	リズム演習：和太鼓オリジナル曲の練習 譜読み 弾き歌い：確認テスト 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
13	リズム演習：和太鼓オリジナル曲の練習 打ち込み 弾き歌い：試験曲のレッスン 【課題(予習・復習)】レッスンした内容の復習と発表曲・試験曲の練習（1～2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	リズム演習：和太鼓オリジナル曲の練習 仕上げ 弾き歌い：試験曲のレッスン、グループ発表会を行い、相互評価しあう [課題(予習・復習)] レッスンした内容の復習と発表曲・試験曲の練習(1~2h)
15	リズム演習：和太鼓オリジナル曲の発表とまとめ 弾き歌い：試験曲のレッスン 仕上げ [課題(復習)] レッスンした内容の復習と試験曲の練習(2~3h)
時間外での学修	保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリー曲を増やしてください。 質問等があれば、研究室(A307:A号館3F)へきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	表現活動するにはまずは自分自身が感性を豊かにすることです。常に五感を意識して生活をしましょう。また、積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻、欠席をしないように心がけましょう。オフィスアワーは研究室(A307:A号館3F)で毎週火曜日昼休みです。

【ES】幼児と音楽表現		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	光井 恵子・春日 有貴江・加藤 有子・竹内 美樹・日比 裕美子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	領域「表現」での音楽を用いた活動をするためには、様々な音楽的スキルが必要です。この授業では、前期に引き続き個人レッスンでは[弾き歌い]の技術を高めていきます。またクラス授業では、音楽を活用した様々な表現活動を体験していきます。その活動から表現活動の楽しさを知り、保育での活用法を学んでいきます。						
授業方法	1コマでクラス授業と各自の個人レッスンを受講します。 グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。 クラス授業（光井） 個人レッスン（春日、加藤、竹内、日比）						
到達目標	知識・理解	曲に合わせた伴奏の方法を理解し、応用することができる。音楽を活用した様々な表現活動の内容や方法を理解する。					
	思考・判断・表現	様々な音楽ジャンルの子どもの歌に触れ表現し、現場での即戦力となるよう努める。保育の様々な場面や環境に合わせた表現活動を行うことができる。					
	技能	様々な方法を用いて音楽を活用した表現活動を実践することができる。					
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表・実技試験		10	10	10	10	40
	達成度		5	5	5	-	15
	レポート		5	5	5	-	15
	受講態度		-	10	-	20	30
合計(点)		20	30	20	30	100	
評価の特記事項	レポート(クラス授業)、発表(クラス授業)、実技試験(弾き歌い)、受講態度等で評価します。受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況になります。						
テキスト	『こどものうた100』小林美実 監修 井戸秀和 編 チャイルド本社 ISBN:9784805481868						
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	クラス授業：領域「表現」の内容を考える グループワーク [課題(復習)]学修した内容の確認 弾き歌い：前期習得した伴奏付けの復習 [課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)						
2	クラス授業：絵本を使った表現活動 (おおきなかぶ)の読み聞かせ・パート分け [課題(準備)]自分のパートの台詞と動きを考える 弾き歌い：秋の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)						
3	クラス授業：絵本を使った表現活動 (おおきなかぶ)パート練習 [課題(準備)]自分のパートの台詞と動きを考える 弾き歌い：秋の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)						
4	クラス授業：絵本を使った表現活動 (おおきなかぶ)グループ発表 [課題(復習)]学修した内容の復習 弾き歌い：秋の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)						
5	クラス授業：童謡を使った合奏 (3歳未満児の楽器遊び) [課題(復習)]学修した内容の復習 弾き歌い：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)						
6	クラス授業：童謡を使った合奏 (園での合奏活動を考える) [課題(予習・復習)]学修した内容の復習、発表にむけての個人練習 弾き歌い：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)						
7	クラス授業：童謡を使った合奏 (パート練習・発表) [課題(復習)]学修した内容の復習 弾き歌い：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)						
8	クラス授業：ミュージックベルを楽しもう (奏法とパートの決め方) [課題(復習)]学修した内容の復習 弾き歌い：確認テスト [課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)						
9	クラス授業：ミュージックベルを楽しもう (グループ決めと曲決め) [課題(予習・復習)]学修した内容の復習、発表にむけての練習 弾き歌い：様々なジャンルの歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [課題(予習・復習)]コードの復習、レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)						
10	クラス授業：ミュージックベルを楽しもう (グループ練習) [課題(予習・復習)]学修した内容の復習、発表にむけての練習 弾き歌い：様々なジャンルの歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [課題(予習・復習)]レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	<p>クラス授業：ミュージックベルを楽しもう（発表） 「課題(予習・復習)」学修した内容の復習、発表にむけての練習 弾き歌い：さまざまなジャンルの歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 「課題(予習・復習)」レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1~2h）</p>
12	<p>クラス授業：絵本を使った合奏：（おおきなかぶ）パート分け・譜読み 「課題(予習・復習)」学修した内容の復習、譜読み 弾き歌い：確認テスト 「課題(予習・復習)」レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（3h）</p>
13	<p>クラス授業：絵本を使った合奏：（おおきなかぶ）個人練習・パート分け 「課題(予習・復習)」学修した内容の復習、譜読み、個人練習 弾き歌い：試験曲のレッスン 「課題(予習・復習)」コードの復習、レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1~2h）</p>
14	<p>クラス授業：絵本を使った合奏：（おおきなかぶ）パート分け・合奏 「課題(予習・復習)」学修した内容の復習、発表に向けた練習 弾き歌い：試験曲のレッスン グループ発表会を行い、相互評価しあう 「課題(予習・復習)」レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習（1~2h）</p>
15	<p>クラス授業：絵本を使った合奏：（おおきなかぶ）合奏・発表・まとめ 「課題(復習)」学修した内容の復習、まとめの課題 弾き歌い：試験曲のレッスン 仕上げ 「課題(復習)」レッスンした内容の復習と試験曲の練習（1~2h）</p>
時間外での学修	<p>保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身につけていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリーを増やしてください。またクラス授業の課題は、次の授業で活用させていただきます。必ず取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>表現活動するためにまずは自分自身が感性を豊かにすることです。常に五感を意識して生活をしましょう。また、積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻、欠席をしないように心がけましょう。オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で毎週火曜日昼休みです。</p>

【ES】幼児と造形表現		幼児教育学科		2年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	立崎 博則					
資格・制限等	保資必修					
実務家教員						
授業内容	造形表現の指導法について、子どもの発達段階について造形ワークショップを実施し段階的に学んでいく。また、発達段階を想定した課題制作を通して、必要な援助について主体的に確認していく。					
授業方法	造形ワークショップの体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。					
到達目標	知識・理解	幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、造形ワークショップを通して子どもの造形の発達段階に即した援助を行うための知識を身につける。				
	思考・判断・表現	造形ワークショップでの制作の中で、自分の感じたことや考えたことを自分なりに表現し表現する楽しさを感じるとともに、子どもの表現をどう引き出すかについて思考することができる。				
	技能	自らの造形表現の体験から具体的な指導場面を想定して、子どもの発達や目的に応じた活動とその指導・援助方法を構想する技能を身につける。				
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	創作作品	-	-	30	-	30
	レポート	-	30	-	-	30
	ポートフォリオ	30	-	-	-	30
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	30	30	30	10	100	
評価の特記事項						
テキスト						
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	子どもの作る・表現するを通して ・子ども達の豊かな感性と創造性について育む [課題(準備)] 道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)] おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)					
2	幼児の描画の発達段階 ・クロッキーをしよう ・子どもの絵を真似して描こう [課題(準備)] 道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)] おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)					
3	造形表現と発達段階(4-7歳頃まで) ・ワークショップを通して考える [課題(準備)] 道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)] おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)					
4	造形表現と発達段階(4-7歳頃まで) 造形表現と4-7歳頃までの発達段階 ・ワークショップの振り返り ・素材を研究する [課題(準備)] 道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)] おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)					
5	造形表現と発達段階(4-7歳頃まで) ・年長児との制作 ・制作1 [課題(準備)] 道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)] おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)					
6	造形表現と発達段階(4-7歳頃まで) ・年長児との制作 ・制作2 (作品)の提出とレポート課題 について [課題(準備)] 道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)] おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)					
7	造形表現と発達段階(2-4歳頃まで) ・ワークショップを通して考える [課題(準備)] 道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)] おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)					
8	造形表現と発達段階(2-4歳頃まで) 造形表現と2-4歳頃までの発達段階 ・ワークショップを振り返る ・見立て遊びについて [課題(準備)] 道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)] おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)					
9	造形表現と発達段階(2-4歳頃まで) ・制作1 [課題(準備)] 道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)] おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
10	造形表現と発達段階（2-4歳頃まで） ・制作2 （作品の提出とレポート課題について） [課題（準備）]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
11	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） ・ワークショップ通して考える [課題（準備）]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
12	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） 造形表現と0-2歳頃までの発達段階 ・ワークショップを振り返る [課題（準備）]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
13	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） ・制作1 [課題（準備）]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
14	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） ・制作2 （作品の提出とレポート課題について） [課題（準備）]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
15	造形表現と発達段階 造形表現と7-12歳頃までの発達段階 ふりかえり [課題（準備）]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
時間外での学修	・日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 ・定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」（豊かな感性）を一緒に増やし、子ども達の「やってみたい!」（創造力）を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室（H201）にて金曜日11:00-12:00です。

【ES】幼児と造形表現		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	立崎 博則						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	造形表現の指導法について、様々な指導方法を造形ワークショップを実施し段階的に学んでいく。また、授業後半は、指導案を作成し、グループでワークショップの実践をすることにより、実践的な技能を身につけることを目指す。						
授業方法	造形ワークショップを体験しその学びをまとめる。また、指導案を作成し、グループで発表する。						
到達目標	知識・理解	幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、造形ワークショップを通して、造形活動の指導法についての知識を身につける。					
	思考・判断・表現	造形ワークショップでの制作の中で、自分の感じたことや考えたことを自分なりに表現し表現する楽しさを感じるとともに、造形活動の中で子ども達一人一人の表現をどう引き出すかについて思考することができる。					
	技能	自らの造形表現の体験から具体的な指導場面を想定して、子ども達の発達や目的に応じた活動ふまえた指導案を作成することにより、指導・援助方法を技能を身につける。					
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし友達と共感し合うことにより、表現を楽しむことができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	創作作品		-	-	20	-	20
	実践		-	20	-	-	20
	レポート		-	30	-	-	30
	ポートフォリオ		20	-	-	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		20	50	20	10	100	
評価の特記事項							
テキスト							
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	造形表現の指導方法 様々な指導形態 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)						
2	造形表現の指導方法 ワークショップを通して考える 保育者主導型の活動 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)						
3	造形表現の指導方法 ワークショップの振り返り 保育者主導型の活動 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)						
4	造形表現の指導方法 ワークショップを通して考える 子ども自由型の活動 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)						
5	造形表現の指導方法 ワークショップの振り返り 子ども自由型の活動 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)						
6	造形表現の指導方法 ワークショップを通して考える 保育者誘導型の活動 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)						
7	造形表現の指導方法 ワークショップの振り返り 保育者誘導型の活動 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)						
8	造形表現の指導方法 まとめ 指導案作成とワークショップの実践について [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)						
9	ワークショップの実践 造形遊びの設定1 指導案の作成 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	ワークショップの実践 造形遊びの設定2 指導案の作成 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
11	ワークショップの実践 造形遊びの設定3 ワークショップの準備 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
12	ワークショップの実践 造形遊びの設定4 ワークショップの実践 2グループ [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
13	ワークショップの実践 造形遊びの設定5 ワークショップの実践 2グループ [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
14	ワークショップの実践 造形遊びの設定6 ワークショップの実践 2グループ [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
15	ワークショップの実践 ワークショップのフィードバック レポート課題 [課題(準備)]道具、環境、アイデアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題(準備)]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
時間外での学修	・日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 ・定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」(豊かな感性)と一緒に増やし、子ども達の「やってみたい!」(創造力)を支えることができるよう、造形表現について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室(H201)にて金曜日11:00-12:00です。

【ES】 幼児の運動と遊び		幼児教育学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	垣添 忠厚					
資格・制限等	幼免必修					
実務家教員						
授業内容	子どもの成長に合った運動や運動遊びを学修します。子どもたちが主体的・積極的に取り組めるように配慮し、子どもの基本運動能力が養われるように導くため、基礎技能の修得や援助方法を学び、現場で活かせるよう技術を身につけます。					
授業方法	グループ活動の中で協力し合いながら、各テーマに沿って実施します。					
到達目標	知識・理解	幼児の発育発達について理解し、基本運動を修得する。				
	思考・判断・表現	幼児の基本運動能力が養われるように援助する技術・技能を高めることができる。				
	技能	保育者と幼児の両方を演じながら受講することができ、豊かな感性をもち実践に活かすことができる。				
	関心・意欲・態度	幼児の運動遊びを十分に体験し、活動の中で仲間と協力することができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	受講態度	15	-	-	15	30
	レポート	-	15	-	-	15
	自己評価	-	15	-	-	15
	発表	-	-	20	-	20
	課題提出	-	-	20	-	20
	合計(点)	15	30	40	15	100
評価の特記事項	受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。レポート、自己評価は出席カードに記入する内容を基に評価します。発表は、サーキット運動あそびの発表内容を評価します。課題提出は、ノートの内容を評価します。					
テキスト						
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼児体育、必要に応じて資料を配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション(授業内容の説明) [課題(復習)] 授業内容を把握し、計画を立てる。(1h~2h)					
2	マット運動あそび(基本の遊び) [課題(復習)] 幼児の運動について理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)					
3	マット運動遊び(段階指導) [課題(復習)] マット運動の指導について理解し、補助の仕方をノートにまとめる。(1h~2h)					
4	鉄棒運動遊び(基本の遊び) [課題(復習)] 鉄棒の握り方を覚え、ノートにまとめる。(1h~2h)					
5	鉄棒運動遊び(段階指導) [課題(復習)] 鉄棒の指導について理解し、補助の仕方をノートにまとめる。(1h~2h)					
6	平均台運動遊び(基本の遊び) [課題(復習)] 平均台運動について理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)					
7	平均台運動遊び(段階指導) [課題(復習)] 平均台の指導について理解し、補助の仕方や遊びの工夫を試案する。(1h~2h)					
8	サーキット運動遊び(基本の遊び)、小テスト(補助の仕方について) [課題(復習)] サーキットについて理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)					
9	サーキット運動遊び(ノートにまとめたものを基に、発展、発表準備) [課題(復習)] これまでに行った運動遊びの中から工夫し、発表に向けて準備する。(1h~2h)					
10	サーキット運動遊び(発表) [課題(復習)] 発表を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)					
11	水遊び(道具の制作・準備)、ノート(課題)の確認 [課題(復習)] 水遊びについて理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)					
12	水遊び(道具の制作) [課題(復習)] 道具の制作過程をノートにまとめる。(1h~2h)					
13	水遊び(仮設プールの準備) [課題(復習)] 仮設プールの設営方法を理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)					
14	水遊び(仮設プールの設営、実践、片付け) [課題(復習)] 水遊びの指導案を作成し、課題提出に向けて準備する。(1h~2h)					
15	まとめ(総まとめ) [課題(復習)] これまでの学びをノートにまとめ、現場実習等で活かす。(1h~2h)					
時間外での学修	体調管理に気を配り、毎時間の準備物等の確認をしてください。発表に向けての準備を十分に行ってください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】					
受講学生へのメッセージ	保育者ということ念頭に置き、自分らしさを素直に表現できるよう全ての授業を積極的に受講してください。運動のできる服装と体育館シューズを必ず着用すること。オフィスアワーは研究室(H203:H号館)で毎週金曜日の12:15~12:45です。					

【ES】幼児の運動と遊び		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	垣添 忠厚						
資格・制限等	幼免必修						
実務家教員							
授業内容	子どもたちが主体的・積極的に取り組めるように配慮し、子どもたちの基本運動能力が養われるように導くため、基礎技能の修得や援助方法を学び、現場で活かせる技術を身につけます。また、手具を用いたリズム運動や親子体操等の発表を行い、発表に到るまでの過程において工夫することや発想力を向上させることをねらいとします。						
授業方法	グループでの活動を中心に、発表に向けての準備や構想を思案し実施します。						
到達目標	知識・理解	幼児の基本運動能力が養われるように的確に援助することができる。					
	思考・判断・表現	各種目において、保育者として感性豊かに運動あそびを工夫することができる。					
	技能	保育者と幼児の両方を演じながら受講することができ、豊かな感性をもち実践に活かすことができる。					
	関心・意欲・態度	幼児の運動遊びを十分に体験し、発表に向けて活動する中で仲間と協力することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	受講態度		15	-	-	15	30
	レポート		-	15	-	-	15
	自己評価		-	15	-	-	15
	発表		-	-	40	-	40
合計(点)		15	30	40	15	100	
評価の特記事項	受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。レポート、自己評価は出席カードに記入する内容を基に評価します。発表は、各種目の発表内容を評価します(3回)。						
テキスト							
参考書・教材	『親子でからだあそび』(著:佐藤弘道、世界文化社)、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼児体育、必要に応じて資料を配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション(授業内容の説明) [課題(復習)] 授業内容を把握し、計画を立てる。(1h~2h)						
2	親子体操(目的の理解と実技) [課題(復習)] 授業で行った親子体操をノートにまとめる。(1h~2h)						
3	ボール運動遊び [課題(復習)] ボール運動遊びについて理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)						
4	ボール・リズム運動(基本の動き・創作) [課題(復習)] ボール運動について理解し、創作内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
5	ボール・リズム運動(仕上げ・発表) [課題(復習)] 発表を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
6	なわ・リズム運動(基本の動き・創作) [課題(復習)] なわの運動について理解し、創作内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
7	なわ・リズム運動(仕上げ・発表) [課題(復習)] 発表を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
8	バルーン・リズム運動(基本の動き・創作) [課題(復習)] なわの運動について理解し、創作内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
9	バルーン・リズム運動(仕上げ・発表) [課題(復習)] 発表を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
10	創作リズム運動(リズム運動の目的の理解と創作) [課題(復習)] 授業内容を把握し、子どもまつりに向けた計画を立てる。(1h~2h)						
11	創作リズム運動(創作・仕上げ) [課題(復習)] 創作内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
12	創作親子体操(選曲と創作) [課題(復習)] 創作内容を、ノートにまとめる。(1h~2h)						
13	創作親子体操(創作・仕上げ) [課題(復習)] 創作内容や課題を、ノートにまとめる。(1h~2h)						
14	発表に向けて(練習・プレゼンテーションの準備) [課題(復習)] 発表の内容や課題を、ノートにまとめる。(1h~2h)						
15	発表会 [課題(復習)] 発表の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
時間外での学修	発表に向けた準備や練習を十分に行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:30時間】						
受講学生へのメッセージ	保育者ということを念頭に置き、自分らしさを素直に表現できるよう全ての授業を積極的に受講してください。 オフィスアワーは研究室(H203:H号館)で毎週金曜日の12:15~12:45です。						

【ES】教職演習		幼児教育学科		2年通年			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	大橋 淳子・名和 孝浩						
資格・制限等	幼免必修						
実務家教員	保育所保育士・9年						
授業内容	実習に先立ち、教育実習の意義と役割を理解し、幼稚園教諭として必要な知識技能を高めるために、幼児教育の実践に向けて次の内容について考察する。(1)必要な教職教養について整理する。(2)教育実習の意義と目的、幼稚園の現状と課題について学ぶ。(3)幼稚園教育要領に基づいた指導の実際について学ぶ。						
授業方法	講義と演習、実技指導等を含めた授業展開を進めていく。保育者としての資質を高めるために、自分なりに考える場面を重視した指導形態をとる。						
到達目標	知識・理解	保育実習の意義と目的を理解し、幼稚園の現状と課題について学びを深めることができる。					
	思考・判断・表現	豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者像を常に描き、研鑽に努めることができる。					
	技能	幼稚園教育要領に基づいた指導の実際について学び、保育実践力を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	教育実習に向けて保育技術の向上を図ると共に、必要な書類の作成ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		20	20	-	-	40
	実技試験		-	-	30	-	30
	受講態度		-	-	-	30	30
	合計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『文部科学省 幼稚園教育要領解説』フレーベル館(259円)ISBN:978-4577814475 『幼稚園・保育所・こども園実習パーフェクトガイド』わかば社(1,512円)ISBN:978-4907270193 1年次購入済み						
参考書・教材	保育所保育指針、幼児連携型認定こども園教育保育要領 フレーベル館 保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z 実践できる! 保育所・施設・幼稚園・認定こども園 実習テキスト						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：幼稚園実習の意義、目的、内容の理解をする。 [課題(予習)]1年次のテキストを熟読しておくこと。(1H)						
2	幼稚園の一日の生活の流れと保育内容の理解：幼稚園と保育所・認定子ども園の違いを理解する。 [課題(復習)]幼稚園・保育所の違いをレポートにまとめる。(2H)						
3	幼稚園・保育所の違いを確認する。 幼児の年齢、季節に適した絵本を調べる。：図書館にて絵本リスト(9月実習分)を作成する。 [課題(復習)]絵本リストの作成(2月実習分)(2H)						
4	幼児の年齢、季節に適した自然遊びを調べる。：学内を探索して自然遊びの教材研究をする。 [課題(復習)]「自然遊び絵本」を各自作成する。(2H)						
5	指導の実際(1)：幼児の心をつかむ自己紹介の仕方を学ぶ。 [課題(復習)]自己紹介絵本を各自作成し、次回の発表練習をする。(2H)						
6	指導の実際(2)：自己紹介絵本を使って幼児の心に寄り添う話し方のポイントをつかんで発表する。 [課題(復習)]他の人の発表を見て、学んだことを記録しておく。(1H)						
7	指導の実際(3)：日常生活への援助の仕方を学ぶ(朝の出迎え、お帰りの仕方等) [課題(復習)]他の人の発表を見て、学んだことを記録しておく。(2H)						
8	幼児理解：幼児の発達と内面理解について学ぶ [課題(復習)]参考資料学んだことを、次回、話し合いができるように各自まとめておく。(2H)						
9	指導案作成のポイントを理解し、身上書の書き方、実習園でのオリエンテーションの受け方等を身につける。 [課題(復習)]身上書の下書きを作成する。(1H)						
10	身上書の清書をする。 「指導案」に基づいて部分実習をするということについて学ぶ。 [課題(予習)]指導案に基づいて授業ができる準備をする。(2H)						
11	季節や年齢に応じた指導案の作成について学ぶ。 [課題(復習)]9月実習に向けて指導案を作成する(1H)						
12	実習日誌の書き方と記録のポイント(1)：1日流れの記録、事例・エピソード・考察等の書き方を学ぶ [課題(復習)]1日の流れの記録についてまとめる(1H)						
13	実習日誌の書き方と記録のポイント(2)：部分実習後の記録、実習終了時の記録等の書き方を学ぶ [課題(復習)]事例またはエピソードの書き方についてまとめる(2H)						
14	実習の反省(1) 教育実習の反省をし、次の教育実習に向けて課題を明らかにする。 [課題(復習)]事後反省シートに記入しておき、個別面談に臨むこと。(1H)						
15	実習の反省(2) 教育実習の反省をし、次の実務研修に向けて課題を明らかにする。 [課題(復習)]事後反省シートに記入しておき、個別面談に臨むこと。(1H)						
時間外での学修	保育に関する学修で身につけた知識と技能を復習しておくこと。実習に向けて、絵本や手遊び・集団遊びなどの教材研究と幼児理解について意欲的に努力しようとする事。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：20時間】						
受講生へのメッセージ	幼稚園教育実習ですぐに役立つように発表の場を多く設ける。積極的に取り組み、自分なりのやり方を身につけてほしい。質問等は名和(H211)・大橋(H205)のオフィスアワーを活用してください。						

【EA】幼稚園教育実習		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択	実習	90時間		
教員	大橋 淳子・名和 孝浩						
資格・制限等	幼免必修 / GPA並びに既修得科目による制限有り						
実務家教員	名和：保育所保育士・9年						
授業内容	これまでに学んだ知識や身につけた技術を保育現場で体験的に学び、保育実践力を身につけます。2週間の実習期間中、主に(1)観察を中心とした実習、(2)補助的な参加、部分実習を中心とした実習に取り組みます。						
授業方法	実習園でのオリエンテーション及び実習園での教育実習を2週間行います。なお、履修において本学または実習園で決められた事項を遵守出来ない場合は、実習を中止することがあります。						
到達目標	知識・理解	幼稚園の生活に参加し一日の流れを把握すると共に、保育を部分的に担当しながら、保育技術を習得する。					
	思考・判断・表現	幼児と共に活動しながら観察し、幼児一人ひとりへの理解を深める。					
	技能	幼稚園の教育課程や指導計画を理解し、幼稚園教育について学ぶ。					
	関心・意欲・態度	幼稚園教諭としての役割を知り、積極的に実習に取り組む。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習園の評価		20	20	20	20	80
	実習日誌		10	10	-	-	20
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。提出物は実習園・担当教員に提出するものの両方を含みます。						
テキスト							
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>第1回 実習園での オリエンテーション</p> <p>第2回～第8回 幼稚園で教育実習（1週目） （1）観察を中心とした実習 ・実習園の概要を知る ・園児と共に活動しながら観察し、幼児理解に努める。 ・幼稚園における保育の資料を収集し、記録をとる。 ・安全に対する配慮、環境整備、清掃の仕方を知る。</p> <p>第9回～第15回 幼稚園で教育実習（2週目） （2）補助的な参加・部分実習を中心とした実習 ・指導教員の補助的役割で保育に参加し、一日の流れを理解する。 ・幼稚園の教育課程・指導計画を理解する。 ・保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。 ・さまざまな幼児とコミュニケーションをとり、一人ひとりの発達への理解を深める。 ・部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。 ・園行事に参加し、行事のあり方について考える。 ・まとめを行い、今後の課題を見つける。 ・保育者や保護者と積極的にコミュニケーションをとり、保護者支援の仕方を学ぶ。</p>						
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の教員の指導を仰ぎましょう 						
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調に留意し、自己管理を怠らず、実習を意欲的に取り組みましょう。質問等は名和（H211）・大橋（H205）のオフィスアワーを活用してください。						

【EA】幼稚園教育実習		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	選択	実習	90時間		
教員	大橋 淳子・名和 孝浩						
資格・制限等	幼免必修 / GPA並びに既修得科目による制限有り						
実務家教員	名和：保育所保育士・9年						
授業内容	これまでに学んだ知識や身につけた技術を保育現場で体験的に学び、保育実践力を身につけます。2週間の実習期間中、主に(1)観察を中心とした実習、(2)補助的な参加、部分実習を中心とした実習に取り組みます。						
授業方法	実習園でのオリエンテーション及び実習園での教育実習を2週間行います。なお、履修において本学または実習園で決められた事項を遵守出来ない場合は、実習を中止することがあります。						
到達目標	知識・理解	幼稚園の全体計画に即して部分的な指導計画を作成し、その実践を通して課題を掴み、保育技術を習得する。					
	思考・判断・表現	幼児一人ひとりの発達を理解し、それに応じた援助の仕方を学ぶ。					
	技能	幼稚園の教育課程や指導計画を理解し、幼稚園教育についての学びを深める。					
	関心・意欲・態度	幼稚園教諭としての役割を知り、保育者や保護者、地域の方と積極的に関わり、実習に取り組む。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習園の評価		20	20	20	20	80
	実習日誌		10	-	10	-	20
	合計(点)		30	20	30	20	100
評価の特記事項	なし						
テキスト	なし						
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>第1回 実習園での オリエンテーション</p> <p>第2回～第8回 幼稚園で教育実習（1週目）</p> <p>（1）参加を中心とした実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習園のようすを全体的に理解する。 ・幼児への理解を深め、一人ひとりに応じた援助の方法を見つける。 ・実習園の指導計画を理解し、焦点化した記録をとるようにする。 ・保護者や地域社会との連携のあり方について理解する。 ・自分の課題とテーマについて理解し、その克服と解明に努める。 <p>第9回～第15回 幼稚園で教育実習（2週目）</p> <p>（2）部分・責任実習を中心とした実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の保育内容や、環境構成と援助のあり方を身につけるように努める。 ・幼稚園の全体計画に即して一日の指導計画、もしくは部分的な指導計画を作成し、その実践を通して課題を掴む。 ・一人ひとりの幼児の発達について理解し、個に応じた指導や援助の方法を学びとし、実践する。 ・幼稚園教諭に求められる資質・能力を理解し、そこから今後の課題を掴む。 ・保育者や保護者、地域の方と積極的にコミュニケーションをとり、子育て支援者としての資質を身につける。 						
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の教員の指導を仰ぎましょう 						
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調に留意し、自己管理を怠りなく、意欲的に取り組みましょう。質問等は名和（H211）・大橋（H205）のオフィスアワーを活用してください。						

【EA】保育実習		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択	実習	90時間		
教員	名和 孝浩・大橋 淳子・立崎 博則						
資格・制限等	保資選択必修 / GPA並びに既修得科目による制限有り						
実務家教員	名和：保育所保育士・9年						
授業内容	保育所保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。						
授業方法	保育実習園でのオリエンテーション及び実習園での保育実習を2週間行います。なお、保育実習を履修する際、本学または、実習園で決められた事項を遵守できない場合は、実習を中止することがあります。						
到達目標	知識・理解	保育の理解を深め、保護者や地域社会との連携のありかたについて学ぶ。					
	思考・判断・表現	乳幼児一人ひとりの発達を理解し、個に応じた援助の仕方を学ぶ。					
	技能	全体計画に即して一日もしくは部分的な指導計画を作成、実践し、保育技術を学ぶ。					
	関心・意欲・態度	保育の理解を深め、乳幼児一人ひとりの理解を深めると共に集団としても捉えることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習日誌		10	10	-	-	20
	実習園の評価		20	20	20	20	80
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領』						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>第1回 実習園での オリエンテーション</p> <p>第2回 - 第8回 保育所での保育実習（1週目） （1）参加を中心とした実習 ・実習園の様子を全体的に理解する。 ・乳幼児への理解を深め、一人ひとりに応じた援助の方法を見つける。 ・実習園の指導計画を理解し、焦点化した記録をとるようにする。 ・保護者や地域社会との連携のあり方について理解する。 ・自分の課題とテーマについて理解し、その解明と克服に努める。</p> <p>第9回 - 第15回 保育所で保育実習（2週目） （2）部分・責任実習を中心とした実習 ・指導職員の保育内容や環境構成と援助のあり方を身につけるように努める。 ・全体計画に即して一日もしくは部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し課題をつかむ。 ・一人ひとりの乳幼児の発達について理解し、個に応じた指導や援助の方法を学び、実践する。 ・保育士に求められる資質能力を理解し、そこから今後の課題をつかむ。 ・部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。</p>						
時間外での学修	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の職員の指導を仰ぎましょう。						
受講学生へのメッセージ	実習は体力がいります。日頃から健康に留意し、自己管理を怠りなく、十分体調を整えて意欲的に実習に取り組みましょう。質問等は各教員のオフィスアワーを活用してください。						

【ES】実習指導		幼児教育学科		2年通年		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	名和 孝浩・大橋 淳子・立崎 博則					
資格・制限等	保資選択必修					
実務家教員						
授業内容	保育士資格取得を目指す学生として、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習に必要な基本的知識や態度を学び、課題を持って実習に取り組めるよう学びます。実習日誌、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習が充実するよう実習に関連する科目での学びも取り入れて知識や技能を修得します。					
授業方法	講義と演習					
到達目標	知識・理解	保育所の一日の流れを理解すると共に、実習施設や保育内容について学ぶ。				
	思考・判断・表現	子どもと共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努め、その記録を日誌にまとめる。				
	技能	保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。				
	関心・意欲・態度	積極的に保育に参加し、保育士の役割について学ぶ。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート	10	20	-	-	30
	小テスト	10	-	-	-	10
	実技試験	-	-	30	-	30
	提出物・受講態度	-	-	-	30	30
	合計(点)	20	20	30	30	100
評価の特記事項						
テキスト	『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z 実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト』【監修】名須川 知子【編著】田中 卓也・松村 齋・小島 千恵子・岡野 聡子・中澤 幸子 萌文書林(1,980円) ISBN: 978-4-89347-360-8					
参考書・教材	厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション ・実習とは何か ・保育実習までの準備と学び [課題(予習)]保育実習園について調べる。(1h)					
2	実習園を決める ・保育実習の意義について学ぶ ・保育ボランティアに向けての準備 [課題(予習)]保育実習園を決め、連絡をとり、内諾を受ける。(1~2h)					
3	保育ボランティアに行こう ・保育ボランティアの心得について学ぶ ・保育ボランティアでの視点について学ぶ ・個人情報の保護に関して学ぶ [課題(復習)]保育ボランティアの依頼と事前オリエンテーションに出向く。(2~3h)					
4	保育実習に向けて自身のめあてを決めよう ・保育ボランティアを振り返り、自身の課題に気づき、目標を立て見通しを持つ ・保育所の機能と目的についてまとめる [課題(復習)]保育ボランティアの振り返りをまとめる。(1~2h)					
5	保育所保育指針から学ぶ(1) ・認定子ども園との相違について知る ・「総則」「子どもの発達」「保育の内容」について学ぶ [課題(予習)]保育所保育指針「総則」「子どもの発達」「保育の内容」を事前の読んでおく。(1~2h)					
6	保育所保育指針から学ぶ(2) ・「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」について学ぶ [課題(予習)]保育所保育指針「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」を事前に読んでおく。(1~2h)					
7	小テスト・保育の実際(1) 部分実習の考え方について学ぶ ・指導案の立て方を学ぶ 指導案を立てて、模擬授業をする [課題(復習)]部分実習の指導案を考えておく。(1~2h)					
8	保育の実際(2) ・自己紹介について考え、必要な準備をする [課題(復習)]必要な準備物を完成させる。(1~2h)					
9	実習日誌の書き方について学ぶ ・実習日誌の書き方を学ぶ。デイリープログラムを、日誌に書く [課題(復習)]デイリープログラムを完成させる。(1h)					
10	実技の確かめ ・保育園をイメージして手遊びをする ・実習日誌の正しい書き方について確認をする [課題(復習)]手遊びの内容を考え、練習をしておく。(1~2h)					
11	実習生としての心構え(1) ・園でのオリエンテーションを受ける時の視点を知る ・実習生としての実習態度、服装・身だしなみの確認をする。 [課題(予習)]事前オリエンテーションを受けるために必要な準備をする。(1~2h)					
12	実習生としての心構え(2) ・実習のめあての確認 ・事務文書(身上書)の作成 [課題(復習)]身上書を完成させる。(1~2h)					
13	実習生としての心構え(3) ・事務文書(訪問担当者への地図)の作成や取り扱いについて確認をする ・個人情報の保護について確認をする [課題(予習)]実習日誌や必要な書類の整理をしておく。(1~2h)					
14	まとめ ・実習の目的と内容の確認 ・評価について ・事務連絡 [課題(復習)]実習初日の持ち物の確認や自己紹介の練習をしておく。(2h)					
15	実習を終えて反省 ・実習を振り返り、めあての達成など自己評価をする ・実習園からのアドバイスなどを元に、今後の実習に向けて課題を明確に持つ [課題(復習)]実習振り返り票の記入をする。(1h)					
時間外での学修	実習に向けて、他の科目での学修も生かしながら準備を進めていきましょう。時間外の学修については、その都度指示をしますから、確実に課題を進めていきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調管理に努めると共に、心身の健康について日頃から意識しましょう。質問等は各教員のオフィスアワーを活用してください。					

【1C4F212】ボランティア実践		幼児教育学科		1～3年通年			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	松村 齋						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	学校教員20年						
授業内容	インターンシップ、ボランティア活動の実践						
授業方法	大学での学びを保育現場で検証・深化させるインターンシップやサービスマーケティング、地域・社会のニーズに応えるボランティア活動への参加。情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う。						
到達目標	知識・理解	子どもの遊びや生活を支えるための、環境構成や援助の在り方について必要な知識を身につけることができる。					
	思考・判断・表現	時代の変化や様々な価値観、地域の特性に対応できる柔軟性を身につける。					
	技能	保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につける。					
	関心・意欲・態度	社会に貢献する使命感と責任感を持って、様々な課題に対応するため地域と連携し、積極的に行動することができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表・レポート		20	-	-	-	20
	自己評価		-	-	20	-	20
	受講態度		-	30	-	-	30
	提出物		-	-	-	30	30
合計(点)		20	30	20	30	100	
評価の特記事項							
テキスト	ありません。						
参考書・教材	学会などの催し、研究会などは案内します。また、日頃から印刷物（新聞、関連誌）を身近な教材にしてください。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>3年間に於いて、下記のいずれかの社会活動に必要な概ね30時間相当以上参加し、そのレポートを随時、提出することで単位を認定します。</p> <p><社会活動の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県や市町村等の主催するボランティア活動への参加 2. 各種団体主催のボランティア活動への参加 3. 地域で行われる行事や活動への参加 4. 保育施設、幼稚園等での指導や補助 5. 自主的な清掃活動 6. その他のボランティア活動等 <p>(随時、討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す)</p> <p><報告書の提出></p> <p>活動後、所定の用紙にて2週間以内にレポートをチューターに提出する。さらに、3年間のインターンシップ・ボランティア活動報告書をポータルサイトに綴り、定期的に教員に提出することが必須。</p>						
時間外での学修	<p>本科目はすべて授業外の時間設定となります。</p> <p>【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</p>						
受講学生へのメッセージ	<p>地域には、若い力を求めるたくさんのニーズがあります。大学で学んだ専門的知識や技能を、社会現場で活用し、社会的ニーズに積極的に応える人間へと自らを高めていきましょう。</p> <p>オフィスアワーは各教員の時間帯を参照。質問・相談は教員に随時行ってください。</p>						

【ES】子ども基礎研究		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	今村 民子・垣添 忠厚・大橋 淳子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	保育者には子育て、子育て支援の中心的な役割を担って行くことが期待されています。この授業では、学内にある子育てサロンに参加して、これまで学んできた知識や技能を基に自分のテーマを見つけ、さらに深く知りたいことや身につけたいことを観察したり体験的に学びながら、保育者としての実践力を高めます。						
授業方法	3つのグループに分かれて受講します。第2、4週目は子育てサロンに参加します。第3週目は学生と親子で遊ぶ中で遊びや発達を体験的に学びます。子育てサロンに参加しない週は事前の準備と、事後の記録や反省で振り返ることをします。						
到達目標	知識・理解	様々な場面を考慮した環境構成をすることができる					
	思考・判断・表現	幼児教育・保育の課題に気づき、それを分析し判断することができる					
	技能	子どもや子育て支援の方法や配慮について理解し、子どもの年齢や発達に応じた支援ができる					
	関心・意欲・態度	お互いに協力しながら、誰とでも積極的に幅広く関わるることができる					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	取り組みの計画や参加の記録		-	40	-	-	40
	レポート		20	-	-	-	20
	受講態度・参加の姿勢		-	-	20	20	40
	合計(点)		20	40	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	なし						
参考書・教材	必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	第 1週 授業の概要（授業の進め方、評価の仕方、グループ分け）						
	第 2週～第 15週						
	<p>4・5・6・7月 第2、4週 子育てサロンでの親子遊び体験 準備したコーナー遊び等を通して、子どもの発達段階、親子への支援の方法を学ぶ [課題(復習)]記録用紙をまとめる [課題(準備)]コーナー遊び、おたのしみ会の準備 (各2h)</p> <p>4・5・6・7月 第3週（おねえさんといっしょ） 子育てサロンでの親子遊び体験（学生運営） 個々の親子と接する中で子どもと遊び、個性や特徴をみつけて保護者と話す [課題(復習)]記録用紙をまとめる [課題(準備)]コーナー遊び、おたのしみ会の準備 (各2h)</p> <p>子育てサロンに参加しない週 事前準備：目的と計画、準備 事後反省：各自とグループでの実施内容の報告 次回への反省課題 記録用紙記入 幼児教育合宿発表(グループ発表)に向けての準備 [課題(復習)]記録用紙をまとめる [課題(準備)]おたのしみ会の準備 (各2h)</p>						
時間外での学修	授業の準備や練習は事前にしっかり済ませておくこと。 質問や疑問点については担当者の研究室に聞きに来てください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	保護者や施設スタッフに対するマナーや挨拶、服装など社会人としての基本的な心得についても注意して臨むこと。 グループごとに役割を分担して準備、企画を担当するなど、お互いに協力し合うようにすること。 オフィスアワーは毎週水曜日昼休みです。						

【ES】子ども基礎研究		幼児教育学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	今村 民子・垣添 忠厚					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	保育者は子育て、子育て支援の中心的な役割を担って行くことが期待されています。この授業ではこれまで学んできた、知識や技能を基にさらに深く知りたいこと、身につけたいことを自分のテーマとして選び、大学の行事や子育て支援の現場に参加しながら、テーマについて研究し、保育者に必要となる知識や技能を体験的に学びます。					
授業方法	授業はグループ活動で行う。行事に参加する準備と体験をして、記録や反省で振り返ることを繰り返しながら進めます。また子ども研究に繋がる各自の研究テーマを見つけてレポート作成をします。					
到達目標	知識・理解	様々な場面を考慮した環境構成をすることができる				
	思考・判断・表現	幼児教育・保育の課題に気づき、それを分析し判断することができる				
	技能	子どもや子育て支援の方法や配慮について理解し、子どもの年齢や発達に応じた支援ができる				
	関心・意欲・態度	お互いに協力しながら、誰とでも積極的に幅広く関わるができる				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	取り組みの計画や参加の記録	20	-	-	-	20
	レポート	-	50	-	-	50
	受講態度・参加の姿勢	-	-	10	20	30
	合計(点)	20	50	10	20	100
評価の特記事項						
テキスト	なし					
参考書・教材	「保育所保育指針」フレーベル館 「幼稚園教育要領」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館 その他必要な資料はその都度配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	<p>第1週 授業の概要（授業の進め方、評価の仕方） 【課題（復習）】前期子育てサロンでの参加記録の見直し（1h）</p> <p>第2週・第3週 復習で見直した参加記録を基にして個人の研究テーマに沿った大学祭での取り組みの計画と準備 大学祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備 【課題（復習）】研究テーマの資料収集（各1h）</p> <p>第4週 個人の研究テーマに沿った大学祭での取り組みの反省 大学祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みについての反省 【課題（復習）】研究テーマの資料収集（1h）</p> <p>第5週～第12週 復習で収集した資料を基に個人研究テーマに沿って研究を進める こども祭におけるグループ毎のテーマを設定し取り組みと準備をする 【課題（復習）】研究テーマの資料収集、レポート作成（各1h）</p> <p>第13週 個人研究レポート完成 こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みと準備 【課題（復習）】研究テーマに沿った内容でこども祭への取り組み方を考えてくる（1h）</p> <p>第14週 こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備 【課題（復習）】子ども研究でのテーマを考える（1h）</p> <p>第15週 こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備、まとめ 【課題（復習）】子ども研究でのテーマを考える（1h）</p>					
時間外での学修	授業の準備は事前にしっかり済ませておくこと。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	保護者に対するマナーや挨拶、服装など社会人としての基本的な心得についても注意して臨むこと。 グループごとに役割を分担して準備、企画を担当するなど、お互いに協力し合うようにすること。 オフィスアワーは毎週水曜日昼休みです。					

【EF】ウインドアンサンブル		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・野々垣 行恵・長尾 洪基						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、2～3回の小長谷宗一客員教授の特別講義があります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほか各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。					
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。					
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールをすべて演奏できる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動について、演奏技術を活用してその指導や支援ができる。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配付。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。パート内集団活動。音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(準備・予習)]シラバスの熟読・自己の基礎力を確認、音楽鑑賞用楽曲 の譜読み、学修ノート記入。(2h~4h)						
2	基礎力向上の為の講座 (個人の基礎力チェック) パート内で討論し、確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(復習)]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、個々に基礎力をチェック、学修ノート記入。(2h~4h)						
3	基礎力向上の為の講座 (ロングトーン・半音階)パート別にチェック 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(復習)]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、ロングトーン・半音階の実践、学修ノート記入。(2h~4h)						
4	基礎力向上の為の講座 (チューニング) 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(復習)]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、チューニング方法の確認と実践、学修ノート記入。(2h~4h)						
5	基礎力向上の為の講座 (長音階スケール) パート内で討論し、確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(復習)]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、長音階スケールの練習、学修ノート記入。(2h~4h)						
6	基礎力向上の為の講座 (長音階スケール) パート内で討論し、確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(復習)]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、長音階スケールの練習、学修ノート記入。(2h~4h)						
7	基礎力向上の為の講座 (ユニゾン) 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(復習)]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、ユニゾンの合わせ方を復習、学修ノート記入。(2h~4h)						
8	基礎力向上の為の講座 (3連符と12/8拍子での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(復習)]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、3連符と12/8拍子での音階練習、学修ノート記入。(2h~4h)						
9	基礎力向上の為の講座 (16分音符での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(復習)]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、16分音符での音階練習、学修ノート記入。(2h~4h)						
10	基礎力向上の為の講座 (3度) 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(復習)]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、3度の練習、学修ノート記入。(2h~4h)						
11	基礎力向上の為の講座 (4度) 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題(復習)]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、4度の練習、学修ノート記入。(2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	基礎力向上の為の講座（5度） 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、5度の練習、学修ノート記入。（2h～4h）
13	基礎力向上の為の講座（アルペジオ：長調） 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、アルペジオ：長調の練習、学修ノート記入。（2h～4h）
14	基礎力向上の為の講座（3度・4度・5度・6度の練習） 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み。合奏。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、3度・4度・5度・6度の練習、学修ノート記入。 （2h～4h）
15	基礎力向上の為の講座（長3和音と属7の和音） 試験指定曲の合奏 [課題（復習・準備）]試験指定の個人練習、長3和音と属7の和音の練習（2h～4h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、授業終了後、教室で行います。

【EF】ウインドアンサンブル		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	選択必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・長尾 洪基・野々垣 行恵						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、2から3回の小長谷宗一客員教授の特別講義を実施します。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほか各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。					
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。					
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールをすべて演奏できる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動について、演奏技術を活用してその指導や支援ができる。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配付。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎力向上の為の講座（短音階スケール） 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み、合奏 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び短音階スケールの練習、学修ノート記入。（2h～4h）						
2	基礎力向上の為の講座（短音階スケール）パート内で討論し、確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み、合奏 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び短音階スケールの練習、学修ノート記入。（2h～4h）						
3	基礎力向上の為の講座（3連符と12/8拍子での音階） 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み、合奏 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び3連符と12/8拍子での音階練習、学修ノート記入。（2h～4h）						
4	基礎力向上の為の講座（16分音符での音階） 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み、合奏 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び16分音符での音階練習、学修ノート記入。（2h～4h）						
5	基礎力向上の為の講座（3度） 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み、合奏 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び3度の練習、学修ノート記入。（2h～4h）						
6	基礎力向上の為の講座（アルペジオ：短調） 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み、合奏 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及びアルペジオ：短調の練習、学修ノート記入。（2h～4h）						
7	基礎力向上の為の講座（短3和音と減7の和音） 及び音楽鑑賞用楽曲 配付・パートで譜読み、合奏 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習、及び短3和音と減7の和音の練習、学修ノート記入。（2h～4h）						
8	基礎力向上の為の講座（グルーピング） 及び定期演奏会に向けての練習1 [課題（復習）]定期演奏会の研究、個人練習、及びグルーピングについて復習し、理解する。学修ノート記入。（2h～4h）						
9	基礎力向上の為の講座（重心） 及び定期演奏会に向けての練習2 [課題（復習）]定期演奏会の研究、個人練習、及び重心について復習し、理解する。学修ノート記入。（2h～4h）						
10	基礎力向上の為の講座（コントラスト） 及び定期演奏会に向けての練習3 [課題（復習）]定期演奏会の研究、個人練習、及びコントラストについて復習し、理解する。学修ノート記入。（2h～4h）						
11	定期演奏会に向けての練習4 [課題（復習）]定期演奏会の個人練習、パート・セクションによる集団練習。学修ノート記入。（2h～4h）						
12	定期演奏会に向けての練習5 [課題（復習）]定期演奏会の個人練習、パート・セクションによる集団練習。学修ノート記入。（2h～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	定期演奏会に向けての練習6 [課題(復習)]定期演奏会の個人練習、パート・セクションによる集団練習。学修ノート記入。(2h~4h)
14	定期演奏会の反省と振り返り、問題点を話し合う。後片付け [課題(復習)]定期演奏会の反省を、個人、パート、全体で行い、来年度に向けての問題点を列挙する。 学修ノート記入。(2h~4h)
15	試験指定曲の合奏 [課題(準備)]試験指定曲の研究・個人練習、学修ノート記入。(2h~4h)
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。[この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：30~60時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。 無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスパワーは、授業終了後、教室で行います。

【EB】音楽理論		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択必修	講義	30時間		
教員	光井 恵子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	保育者や音楽療法士になるために必要な音楽知識を基礎から応用まで学び、幅広い音楽性を身に付けていきます。また現場で活かせるよう、鍵盤楽器を活用して和声法やアレンジ法の基礎を修得していきます。						
授業方法	講義形式ですが、演習的な内容も取り入れていきます。作曲やアレンジした曲を発表することもあります。						
到達目標	知識・理解	保育者や音楽療法士に必要な音楽知識を理解し、説明することができる。					
	思考・判断・表現	教育や保育に必要な音楽知識を身に付け、様々な音楽活動で活用し表現することができる。					
	技能	修得した音楽知識を用いて、応用、発展させていくことができる。					
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描き、教育や保育における様々な課題に対して、積極的に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		20	20	20	-	60
	発表		-	-	10	-	10
	受講態度		-	-	-	30	30
	合計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項	受講態度は、予習・復習等を含めた授業への取り組み状況を総合的に判断します。						
テキスト	『改訂 音楽通論(音楽 で使用した教科書)』教育芸術者(1,028円) ISBN:978-4877884125						
参考書・教材	五線譜、必要に応じて資料は配付します						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音楽の仕組み(1)譜表・音名・音符・休符・小節について [課題(復習)]学修した内容を楽譜上で確認(2~3h)						
2	音楽の仕組み(2)音程について(単音程) [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認(2~3h)						
3	音楽の仕組み(3)音程について(複音程と派生音を含む音程) [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認(2~3h)						
4	音楽の仕組み(4)長音階について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認(2~3h)						
5	音楽の仕組み(5)短音階について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認(2~3h)						
6	音楽の仕組み(6)調号と近親調について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認(2~3h)						
7	音楽の仕組み(7)和音について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認(2~3h)						
8	音楽の仕組み(8)コードネームについて [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認(2~3h)						
9	音楽の仕組み(9)コード進行法について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認(2~3h)						
10	和声法の基礎 和音の様々な関係、終止形について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認(2~3h)						
11	アレンジ法の基礎 リズム・メロディー・ハーモニーの簡単なアレンジ法について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認(2~3h)						
12	前期の課題に向けて(1)オリジナル曲についての説明、曲づくり [課題(復習・準備)]オリジナル曲の作成課題作成(2~3h)						
13	前期課題に向けて(2)オリジナル曲作成 [課題(復習・準備)]オリジナル曲の作成						
14	前期課題に向けて(3)オリジナル曲作成と中間報告と発表、意見交換 [課題(復習・準備)]オリジナル曲の作成・仕上げ						
15	課題の発表とまとめ						
時間外での学修	保育者や音楽療法士として子どもたちを指導するために必要な音楽力を身に付けていきます。毎回の内容を積極的に復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:30時間】						
受講学生へのメッセージ	音楽の基礎知識をしっかりと学び、たくさんの音楽に触れる機会を持ちましょう。様々な活用ができるようにしていきましょう。 オフィスアワーは光井研究室(A307:A号館3F)で毎週火曜日昼休みです。						

【ES】音楽心理学		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択必修	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法資格の取得にはこの授業が必修となっています。						
授業方法	演習を含む講義形式です。						
到達目標	知識・理解	音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけている。					
	思考・判断・表現	音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。					
	技能	音楽心理学で用いられる質問紙の点数計算ができる。					
	関心・意欲・態度	積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	20	-	-	60
	課題提出		-	-	10	10	20
	受講態度		-	-	-	20	20
合計(点)		40	20	10	30	100	
評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は受験資格がありません。						
テキスト							
参考書・教材	プリントを授業内で配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音楽心理学とは 実験1：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較、集団活動、発表 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、メンタルテンポについてまとめる(4H)						
2	メンタルテンポと好みのテンポの関連について 実験2：ゲシュタルト原理と音の群化について 集団活動、発表 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、ゲシュタルトについて理解する(4H)						
3	リズム知覚能力の発達 実験3：調の色彩的表象(12色以上の色鉛筆を持参してください) 集団活動、発表 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、色彩と音との印象の関係についてまとめる(4H)						
4	共感覚について 実験4：楽器の音色による色彩的表象(12色以上の色鉛筆を持参してください) 集団活動、発表 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、音色と色の関係についてまとめる(4H)						
5	絶対音感と相対音感について 実験5：絶対音感テスト 音楽心理学の研究手法について(1)観察法(2)実験法(3)質問紙法 それぞれの特長と適した研究法について [課題(復習)]学んだ内容を復習し、心理学研究の手法について理解する。自分の持つ音感の特性について理解する(4H)						
6	音による感情伝達 実験6：打楽器による感情表現 集団活動、発表 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、リズムの違いによる感情表現について理解する(4H)						
7	BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [課題(復習)]身近な環境にあるBGMについて調べレポートにまとめる(4H)						
8	音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [課題(復習)]知っているCMソングについて調べレポートにまとめる(4H)						
9	音楽心理学で用いる心理尺度について AVSM、STAI 集団活動 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、心理尺度の計算について理解する(4H)						
10	音楽聴取に関する研究1：感情の神経・生理学的測定について [課題(復習)]学んだ内容を復習し、音楽に対する生理的反応について理解する(4H)						
11	音楽聴取に関する研究2：刺激間要因を問題として [課題(復習)]学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する(4H)						
12	音楽聴取に関する研究3：聴取者間要因を問題として [課題(復習)]学んだ内容を復習し、聴取者の性格特性による感情反応の違いについて理解する(4H)						
13	演奏不安に関する研究について 討論、発表 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、演奏反応の克服のための方法についてまとめる(4H)						
14	最近のトピックス 脳研究と音楽認知 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、理解を深める(4H)						
15	テスト前の振り返り [課題(復習)]学んだ内容を復習し、テストの準備をする(4H)						
時間外での学修	プリントをみて学んだことを復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学習時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参加してください。 心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。 オフィスアワーは研究室(B403：B号館4階)で毎週木曜日の13：00～14：30です。						

【EB】音楽療法・基礎		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	選択必修	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶことと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨牀的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います。						
授業方法	講義形式ですが授業の一部分で演習活動も含まれます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。					
	思考・判断・表現	ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。 対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。					
	技能	音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。					
	関心・意欲・態度	意欲的に発表する。他グループの発表について自分の意見を述べるができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	30	-	-	70
	発表		-	10	10	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 課題の提出及び発表がない学生には単位を与えません。						
テキスト	『標準 音楽療法入門 下 実践編』日野原 重明 (監修)、篠田 知璋 (編集)、加藤 美知子 (編集) 春秋社(3,520円) ISBN: 4393934482						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習、レポート提出 [課題(復習)]学んだ内容を復習し音楽療法の手順について理解する(4H)						
2	アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習、レポート提出 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、ランニングアセスメントの役割について理解する(4H)						
3	行動観察について：アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、アセスメントの種類について理解する(4H)						
4	音楽活動の記録について：客観的な記述方法について。反応のあった音楽、視線、セラピストとのかかわりなどについて主観を交えずに描写することができる。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、客観的な記述について理解する(4H)						
5	音楽活動やセラピストの働きかけが対象者にどのように受け止められたか、対象者の感情を押し量って記述し、次回からのセッションの活動で何をい、どこを変えなければならないか自分の考えを記述できる。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、主観的な記述と客観的な記述を分けて記述する(4H)						
6	目標設定について：対象者の分野別に異なる目標があることを知る。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、分野別の目標と活動内容についてレポートを作成する(4H)						
7	長期目標と短期目標について：それぞれの目標の違いを知り、短期目標の立て方を学ぶ。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、長期目標に対応した短期目標を含む音楽活動を考える(4H)						
8	目標に応じた音楽活動の計画1：「動きを促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、音楽活動の発表に向けて練習する(4H)						
9	目標に応じた音楽活動の計画2：「社会性を促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、社会性と音楽活動の関連について理解する(4H)						
10	目標に応じた音楽活動の計画3：「コミュニケーションを促す音楽活動」音楽活動を計画する。活動を発表する。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、コミュニケーション能力と音楽活動の関連について理解する(4H)						
11	事例から目標と活動を設定する演習1：児童 児童の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、児童の音楽活動に使用する曲を練習する(4H)						
12	事例から目標と活動を設定する演習2：成人 成人の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、成人の音楽活動に使用する曲を練習する(4H)						
13	事例から目標と活動を設定する演習3：高齢者 高齢者の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、高齢者の音楽活動に使用する曲を練習する(4H)						
14	この授業のレポート課題内容を説明する。 [課題(復習)]レポート課題に取り組み(4H)						
15	レポート課題の作成 レポート課題を作成、完成させる。 [課題(復習)]学んだ内容の復習(4H)						
時間外での学修	教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への
メッセージ

音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。
課題の提出状況が評価に含まれます。
オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【ES】器楽		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	光井 恵子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	鍵盤楽器を中心に、各自のレベルに合わせた個人レッスンを行います。また、ピアノでのデュオ曲にも挑戦しながら保育者に必要な音楽的基礎技術や技能を修得し、音楽に対する感性を磨きながらハーモニーの美しさを体験し、表現力を高めていくことができるよう実践的に学びます。						
授業方法	各自のレベルに合わせたピアノの個人レッスンが中心です。						
到達目標	知識・理解	様々な音楽のジャンルについて理解し、説明することができる。					
	思考・判断・表現	柔軟な表現力で保育実践に取り組むことができる。					
	技能	現場に即した演奏技術を高めるよう努める。					
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表		10	10	10	10	40
	達成度		10	10	10	-	30
	受講態度		-	10	-	20	30
	合計(点)		20	30	20	30	100
評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。						
テキスト	『バイエル教則本』 『ブルグミュラー-25の練習曲』 『ソナチネアルバム』他各自の楽譜						
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>第1週 授業の説明 選曲等 [課題(予習)] 次回のレッスン曲の予習 (1~2h)</p> <p>第2週~第12週 ピアノ4手連弾、6手連弾で遊ぼう・ミニ発表(2~3人でのグループワーク活動) 各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン(課題の確認) (正確な譜読み・音リズム 適切な指使い) (様々な表現法・強弱 テンポ ペダリング フレージング) (保育現場での活用法) [課題(予習・復習)] 授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習 (各1~2h)</p> <p>第13週~第14週 ピアノ4手連弾、6手連弾で遊ぼう・ミニ発表(2~3人でのグループワーク活動) 各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン(発表に向けての課題曲の仕上げ) [課題(予習・復習)] 授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習 発表に向けての課題曲の弾き込み (各1~2h)</p> <p>第15週 個人発表とグループ発表、まとめ *毎時間課題の確認をします。</p>						
時間外での学修	保育現場で役立つ実力を身に付けるために毎日練習し、積極的に予習・復習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】						
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻・欠席しないように心がけましょう。 オフィスアワーは光井研究室(A307:A号館3F)で毎週火曜日昼休みです。						

【EA】器楽と表現活動		幼児教育学科		2年後期		
		1単位	選択必修	演習	30時間	
教員	光井 恵子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	保育の現場では、子どもたちの日常生活や遊び、また行事の中で様々な音楽が活用されています。保育者はその幅広い音楽のジャンルに対応して、継続的な音楽全般のレベルアップが必要となります。器楽に引き続き、就職試験や保育実務研修、ボランティア活動等で活用できるよう、弾き歌いや様々な楽器を取り入れながら個人レッスンとグループ演習を行い、演奏に対する応用力や様々な指導法を身につけていきます。					
授業方法	各自のレベルや要望に合わせたピアノ個人レッスンとグループでの演習活動を行います。					
到達目標	知識・理解	子どもの発達過程を理解し、音楽的専門知識を修得する。				
	思考・判断・表現	柔軟な表現力で保育実践に取り組むことができる。				
	技能	現場での活用を想定しながら総合的な音楽力を身につける。				
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	発表	10	10	10	10	40
	達成度	10	10	10	-	30
	受講態度	-	10	-	20	30
	合計(点)	20	30	20	30	100
評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。					
テキスト	『1～2年次で学んできた楽譜、各自持参の楽譜等』					
参考書・教材	小林美実 監修、井戸秀和 編『こどものうた100』チャイルド本社 必要な資料は授業で配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	<p>第1週 授業の説明 個人レッスン（季節の歌を中心に・・・春） [課題(復習)]コードと曲の復習 (1～2h)</p> <p>第2週～第3週 個人レッスン（季節の歌を中心に・・・夏） グループ演習（様々な楽器を使った童謡等のアレンジ：曲決めとパート決め） [課題(復習)]コードと曲の復習 (各1～2h)</p> <p>第4週～第6週 個人レッスン（季節の歌を中心に・・・秋・冬） グループ演習（様々な楽器を使った童謡等のアレンジ：曲のアレンジ） [課題(復習)]コードと曲の復習 (各1～2h)</p> <p>第7週～第10週 個人レッスン（生活の歌を中心に） グループ演習（様々な楽器を使った童謡等のアレンジ：個人練習・パート練習） [課題(予習・復習)]コードと曲の復習、発表の曲選び (各1～2h)</p> <p>第11週～第13週 個人レッスン（発表に向けての選曲 練習） グループ演習（様々な楽器を使った童謡のアレンジ：パート練習・合奏） [課題(予習・復習)]コードと曲の復習、発表曲の弾き込み、発表曲についての内容を調べる。 (各1～2h)</p> <p>第14週 グループ発表・総仕上げ [課題(予習・復習)]発表曲の弾き込み (1～2h)</p> <p>第15週 個人発表とまとめ</p> <p>* 毎時間、課題の確認を行っていきます。</p>					
時間外での学修	保育現場で役立つ実力を身に付けるために毎日練習し、積極的に予習・復習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻・欠席しないように心がけましょう。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週火曜日昼休みです。					

【EA】保育教材研究		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	光井 恵子・浦木 京子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	浦木京子（保育士歴：38年）						
授業内容	保育所や幼稚園等の現場における保育教材の一つであるエプロンシアター（視覚教材）を制作し、実習・研修で活用できるように、操作方法や保育技術について学びます。						
授業方法	オリジナル作品を制作に取り組み、グループ演習を通して互いの保育技術を高めていきます。						
到達目標	知識・理解	シアターの制作方法や演じ方について必要な知識を身に付け、説明することができる					
	思考・判断・表現	対象年齢や有効な使い方、子どもの気持ちや反応等に判断しながら表現することができる					
	技能	オリジナルのシアターを用いて、様々な場面に合わせて演じることができる					
	関心・意欲・態度	豊かな感性を養い、理想の保育者像を描きながら、積極的に取り組むことができる					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題制作		20	-	20	-	40
	レポート		5	5	-	-	10
	発表		-	20	10	-	30
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		25	25	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取り組み、課題への取り組み、準備や後片付け等の状況を総合的に評価します						
テキスト							
参考書・教材	作品制作に必要な材料は、指示に従って準備してください。資料は必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>第1回 オリエンテーション シアターについて・作品制作に必要な用具の準備等の説明 *持ち物：布、はさみ、木綿針、フェルト、刺繍糸、紐、安全ピン4本 [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備</p> <p>第2回～第3回 エプロンを制作する（布の裁断、かがり縫い、ミシン縫い） [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備</p> <p>第4回～第5回 エプロンにポケットを縫い付ける [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備</p> <p>第6回～第11回 布マスコットの作成 [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備</p> <p>第12回 作品完成、演じ方を学ぶ [課題(準備)]作品完成、発表に向けての練習</p> <p>第13回 演じ方の理解、グループ演習 [課題(準備)]発表に向けての練習</p> <p>第14回～第15回 作品発表とまとめ [課題(復習)]実習等での発表に向けての反省点等をまとめる</p> <p>* 毎時、課題の確認をします</p>						
時間外での学修	毎回の課題は必ず行い、制作が遅れないように忘れ物をしないようにしてください。子どもたちが楽しめるシアター等の保育教材に関心を持つように心がけてみましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	保育には様々な保育技術が必要です。特にシアター等の保育教材は手遊びや歌等と合わせて演じる機会が多いです。様々なレパートリーを準備し、積極的に演じる機会を見つけて、繰り返し演じることで自信をつけていきましょう。 オフィスアワー 浦木：火曜日（H303）授業終了後 光井：火曜日（A307）昼休み						

【ES】スポーツ・レクリエーション		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	垣添 忠厚						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	垣添：特別支援学校教諭（18年）、小学校教諭（5年）						
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむことができます。これら軽スポーツやレクリエーションの特性について理解し、レクリエーションの中で行われる遊びや活動によってもたらされる「楽しさ」についてスポーツと関連させ、保育や地域活動等で活かせるレクリエーションを学びます。						
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、主に体育館で実技を実施します。内容によって教室にて講義を実施します。学外授業は次のとおりです。4月26日(日)岐阜メモリアルセンター6月14日(日)は大垣市総合体育館、 について詳細と振替日について、第1回の授業時に説明します						
到達目標	知識・理解	レクリエーションの特性について理解する。					
	思考・判断・表現	保育者として、レクリエーションの方法について理解し、実践することができる。					
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。					
	関心・意欲・態度	レクリエーション活動の中で、仲間と協力することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	小テスト		10	-	10	-	20
	レポート		-	15	-	-	15
	自己評価		-	15	-	-	15
	課題提出		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	-	30	30
合計(点)		10	30	30	30	100	
評価の特記事項	小テスト(1回)、課題提出(1回)、レポートと自己評価は出席カードの内容を基に評価します。受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。						
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益財団法人 日本レクリエーション協会 (1,980円)ISBN:978-4-931180-95-6 『アイスブレーキング集』公益財団法人 日本レクリエーション協会 (990円)ISBN:978-4-931180-72-7						
参考書・教材	『チャレンジ・ザ・ゲーム(ルールガイド)』 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	講義：レクリエーション概論「レクリエーションとレクリエーション・インストラクター」 [課題(復習・準備)]資格について理解し、手続きの書類を準備する。(1h~2h)						
2	講義：楽しさと心の元気づくりの理論「楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気」、学外授業の説明 [課題(復習・予習)]講義内容をノートにまとめ、学外授業の準備をします。(1h~2h)						
3	講義：レクリエーション支援の理論「コミュニケーションと信頼関係づくりの理論」、アイスブレーキングの実践1(安心感をつくる) [課題(復習)]講義内容と学外授業の振り返りをノートにまとめる。(1h~2h)						
4	講義(学外授業)：楽しさと心の元気づくりの理論「心の元気と地域のきずな」(ノートにまとめた内容を基に) [課題(復習)]講義内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
5	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法 -1「良好な集団づくりの方法1」 [課題(復習)]実技内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
6	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法 -2「良好な集団づくりの方法2」 [課題(復習)]実技内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
7	実技：レクリエーション支援の方法 -1「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ1」、 [課題(復習)]実技内容をノートにまとめ、実践の復習をする。(1h~2h)						
8	実技：レクリエーション支援の方法 -2「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ2」、学外授業の説明(5月26日) [課題(復習)]実技内容をノートにまとめ、実践の復習をする。(1h~2h)						
9	講義：レクリエーション支援の理論「良好な集団づくりの理論」 [課題(復習・準備)]講義内容ノートにまとめ、学外授業の準備をする。(1h~2h)						
10	講義：レクリエーション支援の理論「自主的、主体的に楽しむ力を高める理論」、学外授業のまとめ(ノートを基に) [課題(復習)]学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
11	実技：レクリエーション支援の方法 -4「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法4」 [課題(復習)]学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
12	実技：チャレンジ・ザ・ゲーム記録会、ノート(課題)の確認 [課題(復習)]記録をノートにまとめ、前期の振り返りをする。(1h~2h)						
13	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法 -1「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法1」 [課題(復習)]学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
14	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法 -2「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法2」 [課題(復習)]学修内容を振り返り、りノートにまとめる。(1h~2h)						
15	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法 -3「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法3」 [課題(復習)]学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること(参加手続きが必要な場合が有ります)。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】						
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるように意欲的に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。オフィスアワーは研究室(H203:H号館2F)で毎週金曜日12:15~12:45です。						

【EA】スポーツ・レクリエーション		幼児教育学科		2年後期		
		1単位	選択必修	演習	30時間	
教員	垣添 忠厚					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	垣添：特別支援学校教諭(18年)、小学校教諭(5年)					
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニューススポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的理解と指導法について学びます。10月31日(土)または11月1日(日)は、学外授業となります(授業時に説明します)。					
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、授業は主に体育館で実施します。					
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解し、実践することができる。				
	思考・判断・表現	保育者として、状況を判断し、主体的に活動することができる。				
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。				
	関心・意欲・態度	レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート	15	-	-	-	15
	自己評価	15	-	-	-	15
	発表	-	20	20	-	40
	受講態度	-	-	-	30	30
	合計(点)	30	20	20	30	100
評価の特記事項	レポート、自己評価、発表(2回)、は出席カードを基に評価します。受講態度は、毎時間の取り組みを評価します。					
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益社団法人 日本レクリエーション協会 (1,980円)ISBN:978-4-931180-95-6 『アイスブレーキング集』公益社団法人 日本レクリエーション協会 (990円)ISBN:978-4-931180-72-7					
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、学外授業の説明 [課題(復習)] 授業内容を理解し学外授業の計画を立てる。(1h~2h)					
2	コミュニケーションワーク (個人ゲーム) [課題(予習)] 個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。(1h~2h)					
3	コミュニケーションワーク (集団ゲーム) [課題(予習)] 個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。(1h~2h)					
4	目的に合わせたレクリエーション・ワーク(ドッジボール) [課題(復習)] ドッジボールのルールを理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)					
5	対象に合わせたレクリエーション・ワーク(フライングディスク・ディスクゴルフ)及び学外授業の説明 [課題(復習)] ディスクゴルフのコースづくりを計画し、ノートにまとめる。(1h~2h)					
6	学外授業：ねんりんピック開会式またはレクリエーション体験コーナー(参加者またはスタッフとして) [課題(予習・準備)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)					
7	対象に合わせたレクリエーション・ワーク(ボールゲーム) [課題(復習)] これまでの授業内容をノートにまとめる。(1h~2h)					
8	学外授業：ねんりんピック開会式またはレクリエーション体験コーナー(参加者またはスタッフとして) [課題(復習)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)					
9	学外授業：ねんりんピック開会式またはレクリエーション体験コーナー(参加者またはスタッフとして) [課題(復習)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)					
10	活動領域に合わせたアクティビティ(伝言ゲーム) [課題(予習・復習)] クリスマス会に向けて準備をする。(1h~2h)					
11	イベント企画 (グループ作り、計画準備) [課題(復習・準備)] クリスマス会の計画と準備をノートにまとめる。(1h~2h)					
12	イベント企画 (企画準備・内容確認) [課題(復習・準備)] クリスマス会の準備をし、ノートにまとめる(1h~2h)					
13	イベント企画 (クリスマス会(発表)、まとめ、ノート(課題)の確認) [課題(復習)] クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。(1h~2h)					
14	学外授業：ねんりんピック開会式またはレクリエーション体験コーナー(参加者またはスタッフとして) [課題(予習・準備)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)					
15	学外授業：ねんりんピック開会式またはレクリエーション体験コーナー(参加者またはスタッフとして) [課題(復習)] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)					
時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること(参加手続きが必要な場合が有ります)。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】					
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。オフィスアワーは研究室(H203:H号館2F)で毎週金曜日12:15~12:45です。					